



Sun Java System Web Server 6.1 SP9 リリースノート



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 820-4698
2008年2月

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、米国特許、および米国をはじめとする他の国々で申請中の特許が含まれています。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および SunTM Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト(輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む)に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

目次

Sun Java System Web Server リリースノート	7
機能および拡張機能	8
Java Servlet 2.3 および JavaServer Pages (JSP) 1.2 のサポート	8
J2SE プラットフォーム 1.4 JDK のサポート	9
J2SE プラットフォーム 1.5 JDK のサポート	9
J2SE プラットフォーム 1.6 JDK のサポート	9
WebDAV のサポート	9
NSAPI フィルタのサポート	10
HTTP 圧縮のサポート	10
HTTP PUT および DELETE の無効化	10
▼ HTTP PUT および DELETE の無効化	11
検索エンジンのサポート	11
強化されたセキュリティー	12
JNDI のサポート	12
JDBC のサポート	12
Sun Java Studio Enterprise のサポート	12
Active Server Pages のサポート	14
PHP 互換性	14
NSS および NSPR のサポート	15
強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート	15
64 ビットのサポート	16
Solaris PKCS #11 のサポート	16
ローカライズされたバージョンのサポート	17
サポートされるプラットフォーム	18
必要なパッチ	20
Solaris のパッチ	20
HP-UX のパッチ	20
AIX のパッチ	21

サポートされているブラウザ	22
2007年のUS DSTの変更の影響	22
Sun Java System Web Server 6.1で推奨されなくなった/変更された公開インタフェース	23
インストール、アップグレード、移行に関する注意事項	24
インストールの注意事項	24
アップグレード	24
移行	25
製品マニュアル	25
障害を持つユーザー向けのアクセシビリティ機能	27
解決済みの問題	28
6.1 SP9において解決済みの問題	28
6.1 SP8において解決済みの問題	30
6.1 SP7において解決済みの問題	31
6.1 SP6において解決済みの問題	34
6.1 SP5において解決済みの問題	38
6.1 SP4において解決済みの問題	40
6.1 SP3において解決済みの問題	42
6.1 SP2において解決済みの問題	44
6.1 SP1において解決済みの問題	55
6.1において解決済みの問題	57
6.1 マニュアルにおいて解決済みの問題	58
既知の問題点	61
一般	61
管理	63
コア	66
マニュアルとオンラインヘルプ	67
インストール	68
移行	69
サンプル	71
検索	72
セキュリティ	73
ツール	74
Web コンテナ	74
WebDAV	75
ローカリゼーション	75

問題の報告とフィードバックの方法	76
このマニュアルに関するコメント	76
その他の情報	77

Sun Java System Web Server リリースノート

Sun Java™ System Web Server 6.1 SP9 (以後 Sun Java System Web Server 6.1) では、セキュリティ脆弱性に対する重要な修正が行われています。Sun Java System Web Server のすべてのユーザー、特に Secure Sockets Layer (SSL) または Transport Layer Security (TLS) を使用したサイトのユーザーには、このサービスパックをインストールすることを強くお勧めします。このリリースでは、HP-UX および AIX プラットフォームに対するサポートも提供されています。

このリリースノートには、Sun Java System Web Server 6.1 SP9 がリリースされた時点で利用できる重要な情報が含まれています。これには、機能および拡張機能、既知の問題、技術情報、その他の情報の入手先についての情報などが含まれます。サーバーのインストールおよび構成の前にリリースノートを確認し、その後も定期的に最新の情報を参照してください。

Sun Java System Web Server 6.1 のマニュアル全文は <http://docs.sun.com/coll/1308.6> から入手できます。

このリリースノートは、次の節で構成されています。

- 機能および拡張機能
- サポートされるプラットフォーム
- 必要なパッチ
- サポートされるブラウザ
- 2007 年の US DST の変更の影響
- Sun Java System Web Server 6.1 で推奨されなくなった/変更された公開インタフェース
- インストール、アップグレード、移行に関する注意事項
- 製品マニュアル
- 解決済みの問題
- 既知の問題

- お問い合わせ先
- その他の Sun のリソース

機能および拡張機能

Sun Java System Web Server 6.1 では、以下の機能および機能拡張が提供されています。

- Java Servlet 2.3 および JavaServer Pages (JSP) 1.2 のサポート
- J2SE プラットフォーム 1.4 JDK のサポート
- J2SE プラットフォーム 1.5 JDK のサポート
- J2SE プラットフォーム 1.6 JDK のサポート
- WebDAV のサポート
- NSAPI フィルタのサポート
- HTTP 圧縮のサポート
- HTTP PUT および DELETE の無効化
- 検索エンジンのサポート
- 強化されたセキュリティ
- JNDI のサポート
- JDBC のサポート
- Sun Java Studio Enterprise のサポート
- Active Server Pages のサポート
- PHP 互換性
- NSS および NSPR のサポート
- 強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート
- 64 ビットのサポート
- Solaris PKCS #11 のサポート
- ローカライズバージョンのサポート

Java Servlet 2.3 および JavaServer Pages (JSP) 1.2 のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 では、Java 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE™) 準拠の Java Servlet 2.3 および JavaServer Pages™ (JSP™) 1.2 技術仕様が実装されています。J2EE 準拠の Web コンテナにより、Java テクノロジー標準準拠の Web アプリケーションの設計と配備に必要な柔軟性と信頼性が提供されます。Web アプリケーションは、仮想サーバーごとに配備できます。

これらのテクノロジーについては、次のリソースを参照してください。

- Java Servlets <http://java.sun.com/products/servlet/index.html>
- JavaServer Pages <http://java.sun.com/products/jsp/index.html>

サーブレットおよび JavaServer Pages の開発については、『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Programmer's Guide to Web Applications』を参照してください。

J2SE プラットフォーム 1.4 JDK のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 は Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE™) 1.4 をサポートしています。J2SE ソフトウェアは Web Server と共にパッケージされており、Solaris、Linux、および Windows プラットフォームのインストール中にインストールされません。HP-UX および AIX プラットフォームの場合、それぞれのプラットフォームベンダーの Web サイトから Java Development Kit (JDK™) をダウンロードし、Web サーバーにインストールしてください。

Sun Java System Web Server の 64 ビット Solaris SPARC リリースには 64 ビット用 JDK が必要です。その他のすべてのプラットフォームでは、32 ビット用 JDK が必要です。

J2SE プラットフォーム 1.5 JDK のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 は、Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE) 1.5 をサポートしており、次の JDK バージョンについて実証済みです。

- Solaris (SPARC、x86、および AMD64): 1.5.0_11
- Linux: 1.5.0_11
- Windows: 1.5.0_11
- HP-UX: 1.5.0.04
- AIX: 1.5.0 20071025a (SR6b)

J2SE プラットフォーム 1.6 JDK のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 は、Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE) 1.6 をサポートしており、次の JDK バージョンについて実証済みです。

- Solaris (SPARC、x86、および AMD64): 1.6.0_03
- Linux: 1.6.0_03
- Windows: 1.6.0_03
- HP-UX: 1.6.0.00
- AIX: 1.6.0 20071123_01

WebDAV のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 は、WebDAV (Web-based Distributed Authoring and Versioning) プロトコルをサポートしています。以下の機能を利用した協調的 Web パブリッシングが可能です。

- RFC 2518 準拠による RFC 2518 クライアントとの相互運用性
- Web パブリッシングのセキュリティーおよびアクセス制御
- ファイルシステムベースの WebDAV コレクションおよびリソースに対する発行の基本操作

WebDAV は、コンテンツのメタデータ、ネームスペース管理、および上書き保護を統合的にサポートします。これらのテクノロジーは、WebDAV をサポートする多くのオーサリングツールに組み込まれ、協同作業環境のための理想的な開発プラットフォームを提供します。

NSAPI フィルタのサポート

Sun Java System Web Server 6.1 では、NSAPI (Netscape™ Server Application Programmer's Interface) フィルタをサポートするために、NSAPI が拡張されています。

NSAPI フィルタの利用により、HTTP 要求および応答ストリームをカスタム処理できます。この処理により、ある機能で、別の機能に提示されたコンテンツ、または別の機能によって生成されたコンテンツを遮断して、変更することが可能になります。たとえば、あるプラグインで、別の SAF (Server Application Function) によって生成された XML ページを遮断する NSAPI フィルタをインストールして、その XML ページをクライアントにとって適切な HTML、XHTML、または WAP ページに変換することができます。あるいは、NSAPI フィルタが、クライアントから受信したデータを、別のプラグインに提示する前に解凍することもできます。

NSAPI フィルタの詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 NSAPI Programmer's Guide』を参照してください。

HTTP 圧縮のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 は、コンテンツ圧縮をサポートしています。この機能により、コンテンツ量に合わせてハードウェアコストを増加させることなく、クライアントへの配信スピードを速め、より多くのコンテンツを提供できるようになります。コンテンツ圧縮により、コンテンツのダウンロード時間が減少します。これは、ダイアルアップ接続やトラフィックの多い接続を使用するユーザーにとって非常に重要な利点です。

詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Administrator's Guide』を参照してください。

HTTP PUT および DELETE の無効化

この節では、PUT および DELETE オプションを無効にする方法について説明します。

▼ HTTP PUT および DELETE の無効化

- 1 管理コンソールにアクセスします。
- 2 サーバーのリストからサーバーを選択して、「**Manage**」ボタンをクリックします。
- 3 「**Preferences**」タブ内の「**Restrict Access**」リンクをクリックします。
- 4 ドロップダウンリストから「**Edit**」オプションを選択して、「**OK**」ボタンをクリックします。
- 5 「**A method**」テーブルから「**The entire server**」オプションを選択して、「**Edit Access Control**」ボタンをクリックします。
- 6 「**Rights**」列のアクセス権限(r-x--i)リンクをクリックします。
画面下部に「**Access Rights**」テーブルが表示されます。
- 7 「**WRITE**」および「**DELETE**」オプションの選択を解除します。
- 8 「**Update**」ボタンをクリックします。
- 9 「**Submit**」ボタンをクリックします。
- 10 画面右側の「**Apply**」リンクをクリックしてから「**Apply Changes**」ボタンをクリックして、変更を永続的にします。
- 11 変更内容を有効にするために、サーバーを再起動します。

検索エンジンのサポート

Sun Java System Web Server 6.1 は、フルテキストの検索インデックス作成と検索を提供する Java 検索エンジンをサポートしています。検索機能を使用すると、ユーザーはサーバー上のドキュメントを検索して、結果を Web ページに表示できます。サーバー管理者は、ユーザーが検索対象とするドキュメントのインデックスを作成し、固有のニーズに合わせて検索インタフェースをカスタマイズできます。

検索機能にアクセスするためのデフォルトの URL は、`http://server-instance:port number/search` です。

次に例を示します。

`http://plaza:8080/search`

ユーザーがこの URL にアクセスすると、Java Web アプリケーションである「検索」ページが開きます。

基本および高度な検索機能の詳細な手順については、検索エンジンに付属のオンラインヘルプを参照してください。オンラインヘルプにアクセスするには、「検索」ページの「ヘルプ」リンクをクリックしてください。詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Administrator's Guide』を参照してください。

強化されたセキュリティー

Sun Java System Web Server 6.1 では、Java セキュリティーマネージャーによってプラットフォーム認証を使用し、アクセスを制限できます。セキュリティーマネージャー機能を有効にすると、J2EE Web アプリケーションに与える権限を制限することにより、セキュリティーを向上させることができます。セキュリティーマネージャーは、製品のインストール時にはデフォルトで無効になっています。セキュリティーマネージャーを有効にするには、`server.xml` ファイル内のエントリのコメントを外します。

```
<JVMOPTIONS>-Djava.security.manager</JVMOPTIONS>
```

```
<JVMOPTIONS>-Djava.security.policy=instance-dir/config/server.policy</JVMOPTIONS>
```

ここで、*instance-dir* は、このサーバーインスタンスのインストールディレクトリへのパスです。

`server.xml` の詳細については、『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Administrator's Configuration File Reference』を参照してください。

JNDI のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 は、JNDI (Java Naming and Directory Interface™) API をサポートします。JNDI により、多種多様なエンタープライズのネーミングサービスおよびディレクトリサービスへのシームレスな接続が可能になります。

JDBC のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 には、JDBC™ (Java DataBase Connectivity) ソフトウェアが含まれ、業界標準の JDBC ドライバからカスタマイズされた JDBC ドライバまで幅広くサポートしています。

Sun Java Studio Enterprise のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 は、Java Studio Enterprise 8 をサポートしています。Sun Java Studio テクノロジは、Java テクノロジ開発者のために Sun が提供する、強力で拡張可能な統合開発環境 (IDE) です。Sun Java Studio 5 は NetBeans™ ソフトウェアをベースにしており、Sun Java プラットフォームと統合されています。

Sun Java Studio は、Sun Java System Web Server 6.1 でサポートされるすべてのプラットフォームで利用できます。Web Server 用のプラグインは、以下の方法で入手できます。

- Sun Java System Web Server メディアキットの付属 CD
- Sun Java Studio に付属の AutoUpdate 機能を使用する
- Sun Java System Web Server のダウンロードセンター

注 – Sun Java System Web Server 6.1 SP9 の Sun Java Studio 8 プラグインは、ローカルの Web Server でのみ動作します。つまり、IDE と Web Server は同じマシン上にインストールする必要があります。

Sun Java Studio 8 の Web アプリケーション機能の使用について

は、<http://developers.sun.com/>

prodtch/javatools/jsenterprise/learning/tutorials/index.html を参照してください。Sun Java System Web Server 6.1 SP8 インスタンスをデフォルトに設定してから、チュートリアルで説明されている操作を実行してください。

<http://www.netbeans.org/kb/41/j2ee-tut/> にある NetBeans のチュートリアルも参照してください。

Sun Java Studio 8 の詳細は、<http://www.sun.com/software/sundev/jde/> を参照してください。

開発者向けの追加リソースについては、77 ページの「その他の情報」を参照してください。

デバッグのための Sun Java Studio Enterprise 8 の使用

デバッグモードで起動したりリモート Web Server に IDE を手動で接続すると、Sun Java Studio Enterprise 8 をリモートデバッグ用に使用できます。

1. Sun Java System Web Server 管理インタフェースを使用して、デバッグモードでサーバーインスタンスを再起動します (「Server Manager」 > 「JVM General」 > 「Debug Enabled」)。
2. JPDA ポート番号を控えておきます。
3. IDE を起動します。
4. 「Debug」 > 「Start」を選択します。
5. `dt_socket` メソッドを選択します。
6. リモートマシン名および JPDA ポート番号を入力します。

配備されたアプリケーションのサーブレットソースコード上で、IDE に作成されたブレークポイントがアクティブになります。

Active Server Pages のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 は、Sun Java System Active Server Pages version 4.0.1 (以前の Sun ChiliSoft ASP) および version 4.0.2 を通じて Active Server Pages (ASP) 仕様をサポートします。Active Server Pages ソフトウェアは、Sun Java System Web Server にセキュリティ保護された企業レベルの ASP エンジンを追加します。Sun Java System Web Server 6.1 は、次のプラットフォームで Sun Java System Active Server Pages 4.0.1 および 4.0.2 をサポートします。

- Solaris™ (SPARC®) version 8 および 9
- Windows 2000 および Windows XP
- Red Hat Advanced Server 2.1

Sun Java System Web Server にインストールする場合は、Sun Java System Active Server Pages のライセンスは必要ありません。Sun Java System Active Server Pages インストーラは、Sun Java System Web Server メディアキットを購入した場合は付属 CD に含まれています。<http://www.sun.com/software/chilisoft/index.html> からダウンロードすることもできます。

次の事項に注意してください。

- Sun Java System Active Server Pages プラグインを使用する場合は、Sun Java System Web Server 6.1 のインストール後にさらに約 50M バイトのディスク容量が必要になります。
- インストールを始める前に、root としてログインしていることを確認してください。

PHP 互換性

PHP: PHP (Hypertext Preprocessor) は、サポート対象の 3 つの API (CGI、NSAPI、および FastCGI) のいずれかを使用することで、Sun Java System Web Server で使用できます。PHP は、PHP グループから入手可能なページスクリプト言語です。PHP グループは、サポート対象の 3 つの API のいずれかを使用して PHP ソフトウェアを設定する方法を Web サイト (<http://www.php.net>) で詳細に説明しています。

- CGI API は、使用できる中でもっとも安定したインタフェースですが、CGI に固有のパフォーマンスの制限を受けます。
- NSAPI は、Sun Java System Web Server のネイティブ API を利用し、Web Server のメモリー内で PHP ソフトウェアを実行します。この設定により最高のパフォーマンスが提供されますが、スレッドセーフでない PHP モジュールが使用されるとサーバーがクラッシュする危険があります。
- FastCGI インタフェースは、パフォーマンスと安定性を両立させます。FastCGI は、PHP ソフトウェアを Web Server のメモリー外で実行しつつ、要求を処理した後も実行したままにすることを可能にします。不安定な PHP モジュールが使用

されても、Web Server がクラッシュすることはありません。このため、PHP ソフトウェアでは FastCGI インタフェースを使用してください。

FastCGI インタフェース

は、<http://www.sun.com/download/products.xml?id=42d693c3> から入手可能な FastCGI アドオンをインストールすると、Web Server でサポートされます。

PHP ソフトウェアは、FastCGI プロセスとして実行した場合、PHP プロセスのライフサイクルを制御するために 2 つの環境変数を使用します。

- `PHP_FCGI_CHILDREN` は、要求に対する応答として作成される PHP プロセスの数を決定します。
- `PHP_FCGI_MAX_REQUESTS` は、PHP プロセス自体を終了して新しい PHP プロセスに置き換えられるまでに応答できる要求の数を決定します。

注 - `PHP_FCGI_CHILDREN` を使用する代わりに FastCGI アドオンの設定パラメータ `min-procs` で PHP プロセスの最小数を制御することをお勧めします。

NSS および NSPR のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 では、NSS をサポートしています。このバージョンの Web Server に付属する NSS のバージョンは、3.11.7.1 です (32 ビットと 64 ビットの両方とも)。NSS は、セキュリティー対応サーバーアプリケーションのクロスプラットフォーム開発をサポートする一連のライブラリです。Sun Java System Web Server 6.1 SP9 には NSPR 4.6.7 も含まれています。

以前のバージョンの Java Enterprise System (Java ES) から Sun Java System Web Server 6.1 SP9 にアップグレードする場合は、次の NSS パッチをインストールしてください。

- Solaris 8 SPARC: 119209-12
- Solaris 9 SPARC: 119211-12
- Solaris 9 x86: 119212-12
- Solaris 10 SPARC: 119213-12
- Solaris 10 x86: 119214-12
- Linux: 121656-12
- HP-UX pa-risc: 124379-03
- Windows: 125923-01

強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート

Sun Java System Web Server 6.1 は、Web Server での SSL のパフォーマンスを向上させる SunTM Crypto Accelerator 500、1000、4000、6000 のハードウェアアクセラレータボードをサポートしています。

注 - Web Server の使用時に Sun Crypto Accelerator カードを初期化します。Sun™ Crypto Accelerator の詳細は、『Sun Crypto Accelerator 6000 Board Version 1.1 User's Guide』を参照してください。

64 ビットのサポート

32 ビット Solaris SPARC に対する既存のサポートを補完するために、Sun Java System Web Server 6.1 SP9 では 64 ビット Solaris SPARC もサポートしています。

64 ビットリリースは、メモリーを大量に消費する配備環境でも利用できるため、管理者は 32 ビットリリースの場合よりも大きいファイルキャッシュや Java ヒープを設定できます。ただし既存のプラグインは 64 ビットリリースと互換性がありません。これらのプラグインは、プラグインベンダーによって 64 ビットリリース用に再コンパイルされる必要があります。ネイティブの非 Java ライブラリを使用する Java Web アプリケーションも再コンパイルする必要があります。このため、32 ビットリリースの Sun Java System Web Server を配備するほうがよい場合もあります。

Sun Java System Web Server 6.1 SP9 では、FastCGI、Reverse Proxy、および Java Web Services Developer Pack (JWS DP) プラグインの 64 ビットサポートも提供しています。

64 ビットリリースは、UltraSPARC® プロセッサ上の 64 ビット Solaris カーネルと互換性があります。64 ビットリリースは x86 プロセッサ上で使用したり、32 ビット Solaris カーネルとともに使用したりすることはできません。32 ビットリリースは、32 ビットと 64 ビットの両方の Solaris カーネルとの互換性が継続されます。

注 - 64 ビットおよび 32 ビットリリースの Sun Java System Web Server は、別々にパッケージされて配布されます。既存の 32 ビット Sun Java System Web Server インストール環境を 64 ビットインストール環境にアップグレードすることはできません。32 ビットと 64 ビットのリリースは、インストーラ、サーバー起動時、およびサーバーエラーログに表示される次のバージョン文字列で区別できます。

予約解除	バージョン文字列
32 ビット	Sun ONE Web Server 6.1SP8
64 ビット	Sun ONE Web Server 6.1SP8 (64-Bit)

Solaris PKCS #11 のサポート

外部の PKCS#11 トークンを Web Server の SSL サブシステム (NSS) が使用するには、modutil コマンドを使用して、トークンを認識するように NSS を設定する必要があります。

まず、Solaris libpkcs11 ソフトトークンは、PKCS#11 準拠のトークンで、NSS で使用できます。UltraSPARC-T1 による追加の利点として、Solaris 10 の libpkcs11 タスクを使用するシステムでは、プラットフォームの暗号化アクセラレーションサポートを利用します。

使用方法の情報を得るには、引数なしで `modutil` コマンドを実行します。たとえば NSS で Solaris 10 libpkcs11 タスクを PKCS11 トークンとして追加するには、次の手順に従います。

1. Web Server インスタンスの SSL サポートが初期化されたことを確認します。
2. 次のコマンドを実行します。

```
% modutil -dbdir $ALIASDIR -dbprefix $PREFIX -add libpkcs -libfile  
/usr/lib/libpkcs11.so -mechanisms RSA
```

次に、各引数について説明します。

- `$ALIASDIR` は、NSS データベースファイルが存在する、インストールルートに対する `alias` ディレクトリのパスです。
- `$PREFIX` は、エイリアスディレクトリの `key3` および `cer8` データベースファイルで使用されるプレフィックスで、`https-$INSTANCENAME-` という形式です。

`-mechanisms` フラグは、このトークンを指定されたアルゴリズムの優先初期プロバイダにします。

3. すべての機構のリストを得るには、引数なしで `modutil` コマンドを実行します。
4. `pktool` を使用して `libpkcs11` プロバイダのパスワードを初期化します。

```
% pktool setpin
```

NSS の設定の詳細については、`libpkcs11(3LIB)`、`pkcs11_softtoken(5)`、および `pktool(1)` のマニュアルページを参照してください。 `modutil` の詳細については、<http://www.mozilla.org/projects/security/pki/nss/tools/modutil.html> を参照してください。

ローカライズされたバージョンのサポート

Web Server 6.1x のローカライズバージョンを使用している場合は、既存のサーバーに Sun Java System Web Server 6.1 SP9 をインストールすることで、既存のローカライゼーション機能を利用できます。Sun Java System Web Server 6.1 SP9 は、日本語、簡体字中国語、繁体字中国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、韓国語で利用できません。

サポートされるプラットフォーム

Sun Java System Web Server 6.1 SP9 は、Solaris、HP-UX、AIX、Linux、および Microsoft Windows プラットフォームにインストールできます。インストール要件の詳細は、このリリースノートの 20 ページの「必要なパッチ」および『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Installation and Migration Guide』を参照してください。次の表は、プラットフォームのサポートについてまとめたものです。

注 - HP-UX 11i は、PA-RISC プラットフォーム上でのみサポートされます。

表 1 Sun Java System Web Server 6.1 SP9 でサポートされるプラットフォーム

ベンダー	アーキテクチャー	オペレーティングシステム	必要最小限のメモリー	推奨するメモリー	推奨するディスク容量
IBM	PowerPC	AIX 5.1*、5.2、5.3	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Hewlett-Packard	PA-RISC 2.0	HP-UX 11.11	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Microsoft	x86	Windows 2000 SP4 以降 Windows XP Professional Windows 2000 Advance Server Windows 2003 Enterprise Edition (32 ビット) SP1、SP2、および R2 Windows 2003 SP2 および R2	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Sun	SPARC**	Solaris 8、9、10	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Sun	SPARC** (64 ビット)	Solaris 10	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Sun	SPARC**、x86	Trusted Solaris 8 (Professional Services Engagement)***	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Sun	x86	Solaris 9、10	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Sun	x86	Sun Linux 5.0 (非推奨)****	64M バイト	192M バイト	256M バイト

表1 Sun Java System Web Server 6.1 SP9 でサポートされるプラットフォーム (続き)

ベンダー	アーキテクチャー	オペレーティングシステム	必要最小限のメモリ	推奨するメモリ	推奨するディスク容量
Linux	x86	Red Hat Linux Advanced Server 2.1 <ul style="list-style-type: none"> ■ Linux kernel 2.4.9-e.3smp ■ glibc-2.2.4-26 ■ ncurses-4-5.0-5 libncurses5.so から libncurses4.so に対してシンボリックリンクを作成することもできますが、ncurses4-5.0-5.i386.rpm のインストールが推奨されています。 Red Hat Enterprise Linux 3.0 update 1 <ul style="list-style-type: none"> ■ uname -r: 2.4.21-9.ELsmp Red Hat Advanced Server 4.0 SuSE Linux Enterprise 9.0	64M バイト	192M バイト	256M バイト

* AIX 5.1 は推奨されません。

** iPlanet Web Server 6.0 では、古い SPARC CPU はサポートされません。Sun Java System Web Server 6.1 では引き続き UltraSPARC アーキテクチャーがサポートされます。

*** Sun または Sun Partner Advantage によるパートナープロフェッショナルサービスを強くお勧めします。

**** Sun Linux 5.0 のサポートは現在推奨されないものとして示されていますが、Sun Java System Web Server の次のリリースでは削除される予定です。

パフォーマンスとサポートを向上させるには、お使いの Web Server をサポートされるオペレーティングシステムへ移行してください。

注 - Solaris のインストール環境では、Sun Java System Web Server (SP5 以上) で Global Zone とともに Sparse Root Zone および Whole Root Zone をサポートしています。

必要なパッチ

必ず適用可能な最新のパッチを使用して、オペレーティングシステムをアップデートしてください。

注 - Java ES 4 から Sun Java System Web Server 6.1 SP9 にアップグレードするには、Web Server のパッチだけでなく、セキュリティーパッチも追加するようにしてください。

- Solaris のパッチ
- HP-UX のパッチ
- AIX のパッチ

Solaris のパッチ

Solaris ユーザーは、Sun 推奨のパッチクラスタをインストールする必要があります。詳細については、<http://sunsolve.sun.com> を参照してください。

Solaris 8 Release (SPARC)

- Solaris release 8 2/02
- Sun 推奨の最新セキュリティーおよび推奨パッチクラスタ

Solaris Release 9 (SPARC および x86)

- Solaris release 9 8/03 以降
- Sun 推奨の最新セキュリティーおよび推奨パッチクラスタ

HP-UX のパッチ

Sun Java System Web Server 6.1 SP9 を使用するためには、以下の HP-UX パッチが必要です。

HP-UX 11i

- HPUX11i-OE B.11.11.0312 (HP-UX 11i オペレーティング環境コンポーネント)
- HPUXBase64 B.11.11 (HP-UX 64 ビットベース OS)
- HPUXBaseAux B.11.11.0312 (HP-UX ベース OS 補助)
- FEATURE11-11 B.11.11.0209.5 (HP-UX 11i 用機能有効化パッチ、2002 年 9 月)
- HWEnable11i B.11.11.0412.5 (HP-UX 11i v1 用ハードウェア有効化パッチ) BUNDLE B.11.11 (パッチバンドル)

- BUNDLE11i B.11.11.0306.1 (HP-UX 11i に付属する必要なパッチ、2003 年 6 月)
- GOLDAPPS11i B.11.11.0506.4 (HP-UX 11i v1 用 Gold Application パッチ、2005 年 6 月)
- GOLDBASE11i B.11.11.0506.4 (HP-UX 11i v1 用 Gold Base パッチ、2005 年 6 月)
- JAVA00B 2.03.01 (HP-UX 用 Java2 Out-of-box)
- PHCO_29109 1.0 (Pthread の拡張および修正)
- 1.0PHCO_30544 1.0 (Pthread.h fix の修正および新しい拡張)
- PHCO_29495 1.0 (libc 累積パッチ)
- PHCO_31923 1.0 (libc 累積ヘッダーファイルパッチ)
- PHKL_25842 Thread Abort (またはその後継パッチ)

AIX のパッチ

Sun Java System Web Server 6.1 SP9 を使用するためには、以下の AIX パッチが必要です。

AIX 5.1

- 基本レベルの OS – AIX 5.1
- メンテナンスレベルのパッチ – 5100-09
- JDK APAR – IY46667 は必須

AIX 5.2

- 基本レベルの OS – AIX 5.2
- メンテナンスレベルのパッチ 5200-07 以降
- JDK APAR – IY46668 は必須

Web Server 上に Java Web アプリケーションが配置されている場合、IBM JDK のマニュアルに従って、サーバーを起動する前に以下のように環境変数を設定してください。

- `export AIXTHREAD_SCOPE=S`
- `export AIXTHREAD_MUTEX_DEBUG=OFF`
- `export AIXTHREAD_RWLOCK_DEBUG=OFF`
- `export AIXTHREAD_COND_DEBUG=OFF`

上記のコードは、Web Server の起動スクリプトに直接追加できます。

AIX 5.3

- 基本レベルの OS – AIX 5.3
- メンテナンスレベルのパッチ 5300-03 以降

AIX 5.3 Technology Level 6 SP5

AIX version 5.3 から AIX version 5.3 Technology Level 6 SP5 にアップグレードするときは、次のパッチを適用して、管理サーバー/インスタンスサーバーの起動時に制御がコマンド行プロンプトに戻るようになしてください。

- bos.mp/bos.mp64 at 5.3.0.66

AIX 5.3 Technology Level 7 SP2

AIX version 5.3 から AIX version 5.3 Technology Level 7 SP2 にアップグレードするときは、次のパッチを適用して、管理サーバー/インスタンスサーバーの起動時に制御がコマンド行プロンプトに戻るようになしてください。

- bos.mp/bos.mp64 at 5.3.7.2

サポートされているブラウザ

次のブラウザは、Web Server 6.1 管理グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) でサポートされています。

Mozilla 1.7 以降
Firefox 1.0.4 または 1.5 以降
NetscapeNavigator™ 7.0 以降
Microsoft Internet Explorer 6 および 7

2007 年の US DST の変更の影響

米国では、3月の第2日曜日にサマータイム (DST) が始まり、11月の第1日曜日に終了します。これは、オペレーティングシステムおよび JDK/JRE の日付と時刻の規則に影響を及ぼします。

ログファイルに US タイムゾーンの正しい時刻が記録されており、管理サーバーと Java Web アプリケーションがこの変更の影響を受けていないことを確認するには、適切なオペレーティングシステムのパッチをダウンロードして使用します。Solaris パッチは、<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-26-102775-1> からダウンロードできます。

その他のプラットフォームの場合は、同様の DST 互換パッチをオペレーティングシステムのベンダーの Web サイトからダウンロードしてください。

Solaris、Windows、および Linux プラットフォーム上の Web Server 6.1 SP9 のパッケージには、DST 互換 JDK 1.4.2_13 が含まれています。しかし、HP-UX および AIX プラットフォーム上の Web Server 6.1 SP9 パッケージには、JDK は含まれていません。

これらの2つのプラットフォームの場合は、Web Server 6.1 SP9 をインストールする前に、適切な DST 互換 JDK を HP または IBM の Web サイトからダウンロードしてください。サポートされているプラットフォームの JDK バージョンは、次のとおりです。

Solaris:
1.4.2_13
Windows:
1.4.2_13
Linux:
1.4.2_13
HP-UX:
1.4.2_12
AIX:
1.4.2 SR 7

Sun Java System Web Server 6.1 で推奨されなくなった/変更された公開インタフェース

Sun Java System Web Server 6.1 の次の公開インタフェースは、将来の Web Server リリースで推奨されなくなるか、または互換性のない方法で修正される可能性があります。これらのインタフェースは、Web Server 6.1 製品内では変更されないままです。これらのインタフェースに依存するスクリプトは、将来の Web Server リリースで機能するように更新する必要がある場合があります。

表2 推奨されなくなった/変更された公開インタフェース

設定ファイルまたはユーティリティ	説明
magnus.conf	変更されました。一部の機能は別のファイルに移動されます。
server.xml	変更されました。スキーマと機能が変更されません。
nsfc.conf	非推奨になりました。機能が別のファイルに移動されます。
dbswitch.conf	非推奨になりました。このファイルは削除される可能性があります。機能は別のファイルに移動されます。

表2 推奨されなくなった/変更された公開インタフェース (続き)

設定ファイルまたはユーティリティー	説明
password.conf	非推奨になりました。このファイルは削除される可能性があります。機能は別のファイルに移動されます。
ファイルレイアウト	変更されました。設定ファイルの構造が変更されます。
起動、停止、再起動、ローテーションの各スクリプト	変更されました。これらのユーティリティーの名前または場所、あるいはその両方が変更されます。
wdeploy アプリケーション	非推奨になりました。このユーティリティーは削除される可能性があります。機能は別の管理ユーティリティーに統合されます。

インストール、アップグレード、移行に関する注意事項

この節では、Sun Java System Web Server のインストール、アップグレード、および移行に関する注意事項を示します。これらの項目の詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Installation and Migration Guide』を参照してください。Sun Java System Web Server のこのリリースの既知の問題については、[61 ページの「既知の問題点」](#)を参照してください。

インストールの注意事項

次の点に注意してください。

- Web Server を、ディレクトリ名に空白が含まれているディレクトリにインストールしないでください。
Web Server は、たとえば Program Files のようにディレクトリ名の中に空白が含まれているディレクトリにインストールされている場合には起動しません。インストール中にはこの問題についてのエラーメッセージは表示されませんが、インストール後にサーバーが起動しません。
- Web Server は compat-libstdc++ がないと、Red Hat Linux Advanced Server 3.0 にセットアップできません。

アップグレード

既存の Sun Java System Web Server 上に Sun Java System Web Server 6.1 SP9 をインストールする場合、インストーラが自動的にアップグレードを実行します。

Sun ONE Web Server 6.1 SP1 がすでにインストールされている場合は、Sun Java System Web Server 6.1 SP9 のインストーラに 6.1 SP1 がインストールされている場所を示してからアップグレードしてください。

Sun Java Enterprise System 1 がシステムにインストールされていて、Sun Java Enterprise System 1 の一部である Sun ONE Web Server 6.1 を Sun Java System Web Server 6.1 SP9 にアップグレードする場合の手順は、『Sun Java Enterprise System 2004Q2 インストールガイド』を参照してください。

移行

iPlanet™ Web Server 4.1 より前のバージョンから Sun Java System Web Server 6.1 SP9 への直接的な移行はサポートされていません。最初に、旧バージョンのサーバーを iPlanet Web Server 4.1 に移行し、それから Sun Java System Web Server 6.1 SP9 に移行します。

移行についての詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Installation and Migration Guide』を参照してください。このガイドには、version 4.1 から 6.1、および version 6.0 から 6.1 への移行に関する情報があります。

製品マニュアル

Sun Java System Web Server には、製品マニュアルの完全なセットがあり、<http://docs.sun.com/coll/1308.5> で参照できます。

注 – Sun Java System Web Server 6.1 SP9 リリースノートは、<http://docs.sun.com/coll/1308.6> で公開されています。

Sun Java System Web Server のマニュアルは、PDF および HTML 形式のオンラインファイルとして利用できます。次の表に、各マニュアルで説明されている作業と概念の一覧を示します。

表 3 Sun Java System Web Server マニュアルロードマップ

件名	マニュアル
ソフトウェアおよびマニュアルについての最新情報	『Sun Java System Web Server 6.1 SP9 リリースノート』

表3 Sun Java System Web Server マニュアルロードマップ (続き)

件名	マニュアル
Sun Java System Web Server 入門。サーバーの基本と機能を紹介する実習を含む(はじめて使用するユーザーに推奨)	『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Getting Started Guide』
以下のインストールおよび移行作業の実行 <ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Java System Web Server とその多様なコンポーネントのインストール、サポートするプラットフォーム、および環境 ■ 以前のバージョンの Sun Java System Web Server からの移行 	『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Installation and Migration Guide』 このガイドは次に示す Web Server インストール場所からも参照できます。 server-root/manual/https/ig/
以下の管理作業の実行 <ul style="list-style-type: none"> ■ 管理およびコマンド行インタフェースの使用 ■ サーバー環境の設定 ■ サーバーインスタンスの使用 ■ サーバーアクティビティの監視およびログ ■ サーバー保護のための証明書および公開鍵暗号の使用 ■ サーバー保護のためのアクセス制御の設定 ■ Java 2 Platform、Enterprise Edition (J2EE プラットフォーム) のセキュリティー機能の使用 ■ アプリケーションの配備 ■ 仮想サーバーの管理 ■ パフォーマンスニーズに合わせたサーバー作業負荷の定義およびシステムのサイズ決定 ■ サーバードキュメントのコンテンツと属性の検索、およびテキスト検索インタフェースの作成 ■ コンテンツ圧縮のためのサーバー設定 ■ WebDAV を使用した Web 発行およびコンテンツオーサリングのためのサーバー設定 	『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Administrator's Guide』 このガイドは次に示す Web Server インストール場所からも参照できます。 server-root/manual/https/ag/

表3 Sun Java System Web Server マニュアルロードマップ (続き)

件名	マニュアル
以下を実行するためのプログラミングテクノロジーおよび API の使用 <ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Java System Web Server の拡張および変更 ■ クライアントの要求に応じたコンテンツの動的生成 ■ サーバーのコンテンツの変更 	『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Programmer's Guide』
カスタム NSAPI (Netscape Server Application Programmer's Interface) プラグインの作成	『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 NSAPI Programmer's Guide』
Sun Java System Web Server におけるサーブレットおよび JavaServer Pages (JSP) テクノロジーの実装	『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Programmer's Guide to Web Applications』
設定ファイルの編集	『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Administrator's Configuration File Reference』
パフォーマンス最適化のための Sun Java System Web Server の調整	『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide』
FastCGI プラグイン情報	『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 FastCGI Plug-in Release Notes』
逆プロキシプラグイン情報	『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Reverse Proxy Plug-in Release Notes』

障害を持つユーザー向けのアクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能を入手するには、米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を Sun に請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。アプリケーションの最新バージョンは <http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> から入手できます。アクセシビリティ機能に対する Sun の対応については、<http://sun.com/access> を参照してください。

解決済みの問題

この節では、次のリリースで修正されたもっとも重要な問題を一覧表示します。

- [6.1 SP9 において解決済みの問題](#)
- [6.1 SP8 において解決済みの問題](#)
- [6.1 SP7 において解決済みの問題](#)
- [6.1 SP6 において解決済みの問題](#)
- [6.1 SP5 において解決済みの問題](#)
- [6.1 SP4 において解決済みの問題](#)
- [6.1 SP3 において解決済みの問題](#)
- [6.1 SP2 において解決済みの問題](#)
- [6.1 SP1 において解決済みの問題](#)
- [6.1 において解決済みの問題](#)
- [6.1 マニュアルにおいて解決済みの問題](#)

6.1 SP9 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP9 において解決された問題を一覧表示します。

表 4 Sun Java System Web Server 6.1 SP9 において解決された問題

バグ ID	説明
6295325	<p>Web Server は LDAP 接続プール用のタイムアウトパラメータを実装すべきである。</p> <p>LDAP 認証を使用する場合、<code>ldapsession bind</code> および <code>ldap search</code> の実行時に LDAP サーバーが応答しないと、Web Server が応答しません。</p> <p><code>server_root/userdb/dbswitch.conf</code> ファイルにタイムアウト値を秒単位で設定すると、応答しない Web Server が停止するとともに、LDAP サーバーからの応答の待機も停止します。デフォルトでは、タイムアウトは設定されていません。</p> <p><code>dbswitch.conf</code> の例:</p> <pre>default:binddn cn=Directory Manager default:encoded bindpw YWRtaW5hZG1pbG== default:timeout 60</pre>
6370259	FastCGI のシャットダウンが正しく実行されない。
6442778	サーブレット/JSP 内の <code>setContentLength(0)</code> が、値が 0 より大きい場合に動作しない。
6471213	タイムアウト時に不正なエラーメッセージが表示される。
6504581	<code>ldap_result()</code> が原因で、LDAP セッションでメモリーリークが発生する。

表 4 Sun Java System Web Server 6.1 SP9 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6509590	ログレベルに適切なメッセージが表示されない。
6510001	web.xml 内の session-timeout 値が sun-web.xml の timeout 値よりも優先されない。
6540788	有効期間が 99 年の SSL サーバー証明書をインストールできない。
6540817	Web Server 6.1 が Windows 2003 SP2 および R2 でサポートされない。
6542731	Java ES 4 で Web Server 6.1 scheduler を実行できない。
6553963	特定の PDF ファイルが検索エンジンにより認識されない。
6563615	分散管理の設定時に Web Server がセキュリティー保護された LDAP サーバーへの匿名バインドを使用する。
6579852	Web Server のインストールに JDK の最適化されたデバッグバイナリが含まれる。
6581407	Restricting Access to a File Type 機能では、該当する obj.conf ファイルが変更されない。
6590893	Java ES がインストールされた Web Server からアップグレードする場合に、Web Server のスタンドアロンが使用されているかどうかを認識され、ユーザーに警告メッセージを表示すべきである。
6591471	Java がグローバルに無効に設定されている場合、errorlog ファイル内にサーバーのシャットダウンメッセージが存在しない。
6592886	JDBC プールモニターの QueueSize に負の数値が表示される。
6598092	invoker サブレットを使用している場合、RequestDispatcher を使用した初回転送に失敗する。
6603070	一重引用符または二重引用符で囲まれた文字列の Cookie 値が正しく処理されない。
6603088	LDAP 検索でクラッシュが発生する。
6609457	Web Server のインストール後スクリプトにより ABE ケースが正しく処理されない。
6620677	起動スクリプトにより、Solaris 9 に読み込む libmtmalloc の正しい値が計算されない。
6628376	スケジューラの停止時に scheduler.pid ファイルが削除されるべきである。
6628914	/usr/dist/share ディレクトリから Sun Studio 10 を削除すると、Solaris Sparc 8、9、および 10 でビルド時に障害が発生する。
6630037	Cron ログのローテーションが行われるときに、インスタンス名および別のインスタンス名の一部の文字列を使って無効なログアーカイブが作成される。

表 4 Sun Java System Web Server 6.1 SP9 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6638185	検索にクロスサイトスクリプティングの脆弱性が存在する。
6643558	client-ip タグに適切な説明および例を入力する必要がある。
6647151	詳細検索にクロスサイトスクリプティングの脆弱性が存在する。
6619655	逆プロキシプラグインのドキュメントに、Application Server をサポートしていることを記載すべきである。
6514004	HTTP PUT および DELETE を無効にする手順が記載されていない。
6582644	LDAP 認証で新しいタイムアウトパラメータを使用することについての説明をリリースノートに記載すべきである。
6663921	Web Server の起動スクリプトが、AIX 上でサーバーが起動したあとにプロンプトモードに戻らない。詳細は、 22 ページの「AIX 5.3 Technology Level 6 SP5」 および 22 ページの「AIX 5.3 Technology Level 7 SP2」 を参照してください。
6667638	製品に付属のインストールガイドに正しい JDK のバージョンを記載する。

6.1 SP8 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP8 において解決された問題を一覧表示します。

表 5 Sun Java System Web Server 6.1 SP8 において解決された問題

バグ ID	説明
4737204	wdeploy delete コマンドがシンボリックリンクに従い、シンボリックリンクによって示されるディレクトリとそのコンテンツを削除する。
6152655	Web アプリケーションのフォームベース認証により、セッションがアクティブであるにもかかわらず、ユーザーが予想外にログアウトされる。
6235473	WebDAV を使用して作成されたディレクトリの権限を変更できる必要がある。
6319312	FastCGI Authorizer アプリケーションに要求を送信したあとにインスタンスが停止すると、Fastcgistub がコアをダンプする。
6343584	NSS スレッドが所有するロックを待機するデッドロック状態のスレッドにより、Web Server がハングする。
6379347	Access Manager を Web Server に配備する場合に、すべてのバージョンの Web Server 6.1 が読み込み時にクラッシュする。
6497690	Web Server 検索用 Web アプリケーションで、完全 URL または相対 URL/URI の使用を選択できる必要がある。

表 5 Sun Java System Web Server 6.1 SP8 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6508015	getParameterNames() が、クエリー文字列にパラメータ化されていない名前を返さない。
6509623	(Windows XP および Windows 2003): 「スタート」->「プログラム」->「Sun ONE Web Server」->「リリースノート」リンクをクリックして、Web Server 6.1 SP7 リリースノートを開くことができない。
6513358	Web Server の逆プロキシプラグインがチャンクデータを処理していない。
6519021	管理サーバーによって生成された、新しい仮想サーバークラスの obj.conf ファイルにエラーが含まれている。
6519551	JDBC 接続プール機能の問題。
6519839	Web Server のリダイレクト機能に関する脆弱性。
6520528	リダイレクト URL の先頭がスラッシュ (/) でない場合に発生する response.sendRedirect() エラー。
6526460	WS6.1 SP7 での LDAP 接続障害エラー。
6531111	htaccess AuthGroupFile は空のファイルを、指令が指定されていないファイルと同等にサポートすべきである。
6532218	T2000 システムで Web server 6.1 SP7 が libxerces-c.so においてクラッシュする。
6534216	Web Server 6.1 SP8 の README、バージョン文字列、およびライセンスファイルの更新。
6540248	Web Server 6.1 SP8 と NSS 3.11.6 および NSPR 4.6.6 との統合。
6546233	SP8 のリリース番号およびバージョン番号での RPM 仕様ファイルと pkginfo ファイルの更新。
6566204	UTF-7 のクロスサイトスクリプティングの脆弱性。
6567841	フォーム認証バイパスおよび JSP ソースコード開示による脆弱性。
6574379	Web Server 6.1 のブラウザサポートに Internet Explorer 7 が含まれるべきである。

6.1 SP7 において解決済みの問題

次の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP7 において解決された問題を一覧表示します。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP7 において解決された問題

バグ ID	説明
4856895	UNIX: 複数の CPU のあるマシン上でサーバーのシャットダウン中にウォッチドッグプロセスがクラッシュする。
6158040	4.1 から 6.1 への移行中に server.xml ファイル内に JAVA パラメータが見つからない。
6206179	2つのスケジュールされたローテーション間でシステム時間が変更されると、内部ログのローテーションがファイルのローテーションを2回行います。
6213097	4.1 から 6.0 への移行中に、JES3 上で ktsearch.jar が正しく移行されない。
6276594	要求本文に Transfer-encoding: chunked ヘッダーを付けて送信すると PUT 要求に失敗する。
6292582	SNMP マネージャーから照会された場合に、iws.mib の一部である SNMP MIB の「システムメモリー内のプロセスメモリーの割合」が間違った結果を生じる。
6315783	フランス語ロケールで、検索ページのオンラインヘルプリンクが英語のページにリンクしている。
6348395	IWSSessionManager が使用されている場合、セッションを無効化すると HttpSessionListener の sessionDestroyed() が呼び出されない。
6350502	Pragma とキャッシュ制御ヘッダーが相互運用性の問題を引き起こす。
6358858	zlib ライブラリに内部エラーが発生する。
6367672	MaxProcs が 1 より大きい場合に再起動スクリプトが失敗する。
6376035	jstl タグを含む JSP ファイルを正常に実行するよう Web Server を構成できない。
6376082	Application Server 製品との互換性のため Web アプリケーションでルックアップのために JNDI の単純名をサポートする必要がある。
6380777	管理 GUI で magnus-internal/cgi に pl というファイルサフィックスを追加できない。
6381747	セッション属性が HttpSessionBindingListener を実装すると、セッションオブジェクトがアクセスしているかに関係なくセッションタイムアウト時間が過ぎるとセッションが期限切れになる。
6382704	Monitor Web Server Statistics オプションが無効な場合でも管理サーバーがサーバー統計を監視する。
6384456	Web アプリケーションがオブジェクトを不適切に使用しようとする、Web Server がクラッシュする。
6384640	同時再起動要求が Web Server プロセスを中止させる。
6388092	/ns-icons ディレクトリに保存されている画像が Internet Explorer に正しく表示されない。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP7 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6388766	Windows: 新しい CGI シェルディレクトリが作成または編集される場合、日本語のバックスラッシュ記号 (円) 「\」 の処理が異なる。
6392159	スクリプトを再起動する場合に Web Server を間欠的に再起動できず、Web Server がハングする。
6392644	Web Server 6.0 SP10 と Web Server 6.1 SP5 の Readme ファイルの URL が間違っている。
6400307	変数を追加すると、管理 GUI のクラスタ制御機能がハングする。
6418529	検索ページのコンテンツに英語と他の言語が混在している。
6421617	サーバーにより解析される HTML とグループオプションが制限された .htaccess の問題。
6426382	net_write SAF の値が HTTP 圧縮のフラグメントサイズの 3 倍以上の場合、net_flush 呼び出しがすべてのデータをフラッシュしない。
6428199	メンバーのユーザー ID が「,」 (コンマ) を含むユーザーグループに属している場合、検索フィルタに失敗する。
6428403	サブレットフィルタが追加データをコアによって生成された応答の本文に追加した場合、追加データのサイズが元の応答の本文より大きいとサーバーがクラッシュする場合がある。
6429293	Web Server 6.1 サンプルアプリケーションでのセキュリティの脆弱性。
6433752	ssl-check 機能が NSAPI ベースのプラグインで機能しない。
6436535	接続が接続キューにある場合、サーバーが停止時または再起動時にハングアップする。
6437635	特定の状況下での無効になったクライアント証明書と CRL ファイルの問題。
6438408	SNMP プロセスが接続要求のたびにメモリーをリークする。
6439519	ObjectType fn="force-type" 指示が obj.conf ファイルから削除されると、複数バイト範囲に対して要求が行われた場合にサーバーがクラッシュする場合がある。
6441402	Web Server 6.1 SP5 (64 ビット) version で LDAP サーバーの構成に失敗する。
6442651	Web アプリケーションへの URL に URI パラメータが含まれている場合に、再帰的なりダイレクトが行われる。
6448255	Windows: 特定の状況下でファイルハンドルが webservd プロセスによって解放されない。
6451182	Web Server 6.1 SP6 で parseParameters() の CPU 使用率が高い。
6455812	一部の magnus.conf 指示の処理におけるスレッドの安全性の問題によって特定の構成が起動時にクラッシュする。

表 6 Sun Java System Web Server 6.1 SP7 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6458771	./stop が完了する前に ./start を実行すると、watchdog がクラッシュする可能性がある。
6465691	<jsp:include> でのタイトルのある HTML ページの表示エラー。
6471388	Windows: ドキュメントディレクトリとして隠し共有ネットワークドライブを使用すると、 <i>Not Found</i> エラーが発生する。
6473494	NSS での署名 DigestInfo 解析問題。
6477953	Windows: Web Server (スタンドアロン) が NSPR/NSS ビットを変更するため FIPS モードが壊れる。
6477981	.chk ファイルが見つからないため、Web Server (スタンドアロン) で FIPS140 モードが壊れる。
6478972	Web Server 6.1SP6 に付属の JDK は 2007 年のサマータイム (DST) の変更と互換性がない。
6480026	一部のキープアライブ接続が特定の時間後に終了しない。
6482272	Web Server インスタンスの動作状態が変わった場合に、SNMP マスターエージェントがトラップを送信しない。
6482560	HP-UX: 1.4.2.09+ および 1.5.0.3+ JVM があると Web Server がクラッシュする。
6488468	HP-UX: Web Server 用のパッケージされた JDK を削除する。
6489275	FIPS 140-2 準拠のために Web Server 6.1 を最新の NSS バージョンと統合すべきである。
6494886	短い待ち時間/高い並行性モードが動的に切り替えられない場合がある。
6496892	AIX: Web Server 用のパッケージされた JDK を削除する。
6507264	デフォルトログレベルが info に設定されている場合、サーバーの起動時により詳細なログメッセージが表示され続ける。
6508092	高速サイレントモードでインストールすると HP-UX プラットフォーム上の Web Server 6.1 SP7 でサーバーの起動に失敗する。
6510957	Solaris の pkginfo ファイルと RPM 仕様ファイルが古いサービスパック (SP5) を指定する。

6.1 SP6 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP6 において解決された問題を一覧表示します。

表7 Sun Java System Web Server 6.1 SP6 において解決された問題

バグID	説明
5027774	Solaris で設定内の <code>ww_umask</code> が NULL である。
6334248 6397340	<p>Windows 2003 でマップされたネットワークドライブをドキュメントルートディレクトリとして読み込めない。</p> <p>追加情報:共有のネットワークリソースにあるドキュメントルートを使用するには、UNCパスを使用する必要があります。たとえば、//マシン名/共有フォルダ名ようになります。x: などのマップされたドライブ文字は、ドキュメントルートとして機能しません。ドキュメントルートは、<code>server.xml</code> に手作業で指定するか、管理GUIで「Virtual Server Class」->「Content Management」->「Primary Content Directory」の順に選択して指定できます。</p> <p>UNIX 上の共有ディレクトリを使用する場合は、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web Server のインストールされている Windows マシン上に SFU (Windows Services for UNIX) をインストールします。 2. 「スタート」メニューにある SFU ユーザーインタフェースのショートカットを使用して、Windows のユーザーおよびグループを UNIX のユーザーおよびグループにマップします。 <p>注 - Web Server の実行中に、UserNameMapping Service (SFU の一部) を実行する必要があります。</p> <p>別の Windows マシンから共有ディレクトリを使用する場合は、両方のマシンの管理者アカウントのパスワードが同じであることを確認します。同じでない場合、サービスがネットワークリソースにアクセスできません。</p> <p>共有ディレクトリがUNIXまたはWindows上のどちらにある場合でも、インスタンスサーバーに相当するサービスは、デフォルトのローカルシステムアカウント上で実行するのではなく、管理者グループの特定のユーザー(./Administrator など)として実行する必要があります。このためには、「コントロールパネル」->「管理ツール」->「サービス」の順に選択し、「プロパティ」ダイアログボックス内の設定を変更します。</p>
6384651	HP-UX: Web Server が誤った last-modified ヘッダーや date ヘッダーを返すことがある。
6404983	管理 GUI を使用して LDAP サーバーからユーザーおよびグループを検索すると失敗する。
6316387	if-unmodified-since ヘッダーの処理時に、Web Server が誤ったロジックを使用する。
6318003	if-unmodified-since および range を使用した要求に対して、Web Server はコード 412 で実際の内容を返す。
6312702	<code>HttpServletResponse.reset()</code> が想定どおりに動作しない。
6360180	<code>webapps/qa_app/jsp/encodedurlforwarder</code> でクラッシュ。

表7 Sun Java System Web Server 6.1 SP6 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6316881	<p>req.getHeader() でヘッダー内のマルチバイト文字を取得できない。</p> <p>回避方法:</p> <p>デフォルトでは、要求ヘッダーは UTF-8 enc を使用してエンコードされます。要求ヘッダーは、Web アプリケーションレベルでエンコードしてカスタマイズできます。次の手順で行ないます。</p> <ol style="list-style-type: none"> Web アプリケーションの sun-web.xml で、設定パラメータ use-requestenc-for-headers を任意の値 (yes、true、on など) に設定します。以下の例では、Web アプリケーションで要求ヘッダーのエンコーディングが有効になっています。 <pre><sun-web-app> <parameter-encoding form-hint-field="j_encoding"> <property name="use-requestenc-for-headers" value="true" > <session-config> <session-manager> </session-config> <jsp-config> </sun-web-app></pre> <ol style="list-style-type: none"> request.setCharacterEncoding() を使用して、アプリケーション (JSP またはサーブレット) の文字エンコーディングの名前を設定します。
6318406	Web アプリケーションを再配備すると、ファイルの所有権が変更される。
6294743	JSP 検索コレクションを更新すると、ディスク領域がいっぱいになるまで、変換後のディレクトリに新しい tmp ファイルが作成される。
6197731	管理サーバーにアクセスするときに発生する内部エラー。
6316262	管理 GUI はアクセスログパスの変更を反映しない。
6378521	6.1 の makefile では、クリーンアップが必要。
6318200	インストーラのエラーメッセージをフォーマット中にバッファオーバーフロー。
6343584	NSS ブロックにより、keepalive サブシステムでデッドロックが発生する。
6326965	<p>管理パスワードが誰でも読み込み可能なファイルにプレーンテキストで格納される。</p> <p>回避方法: 回避方法は2つあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ファイル .adminpasswd を手動で削除します。 ■ .adminpasswd ファイルのアクセス権を 400 に変更します。

表7 Sun Java System Web Server 6.1 SP6 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4991884	サイズの大きい .doc ファイルで検索インデックスの作成がハングする。
6246214	回避方法: 1. SEARCH 要素内に以下のプロパティを追加します。 <pre><SEARCH> <PROPERTY name="conversionExtensions" Value="pdf,doc"> : : </SEARCH></pre> 2. サーバーを再起動します。 3. コレクションに .doc ファイルを追加します。
6356179	Web Server 6.1 の管理サーバーが USERDB タグの id 属性を変更しない。 追加情報:USERDB タグの id 属性を変更するには、次のどちらかの手順を実行します。 ■ 仮想サーバークラスファイルを1つ作成します。このクラスファイルを使用して、複数の仮想サーバーを作成してください。この場合、vs Class で定義される設定のほとんどは、すべての仮想サーバーに継承されます。 ■ 1つのサーバーインスタンス (https-localhost) 内で複数の仮想サーバークラスを作成します。それぞれの仮想サーバークラスファイルには1つ以上の仮想サーバーを含めることができます。
6333656	Web Server バイナリの MIME タイプファイルに StarSuite または OpenOffice の MIME タイプを設定する必要がある。
6342394	Windows の cron ログのローテーションにより、特定のインスタンス名が付いた無効なアーカイブログが作成されることがある。
6358851	SNMP マスターエージェントおよびサブエージェントの起動に失敗する。
6336309	server.xml 内の特殊文字 (&) の書き換えで問題。
6335483	HP-UX 用にシンボルが有効なビルドを作成する (未ストリップ)。
6332442	Linux で magnus.conf に Init fn="stats-init" が存在すると Web Server がクラッシュする。
4718466	6番目のキーを暗号化デバイスにインポートすると、Web Server 6.0 で次のエラーが表示される。server not avail
6340799	S1WS6.1SP5 SSL の負荷テストをSUSE Linux Enterprise Server 9 SP2で行うと、webservd がメモリーリークする。
6353988	Web Server 6.1SP4/SP5 用の一部の組み込み認証局 (CA) で、クライアントの信頼フラグまたはサーバーの信頼フラグを設定できない。

表7 Sun Java System Web Server 6.1 SP6 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6329109	Web Server 6.1: 同じポートで異なる IP アドレスを使用して実行している複数のインストール環境に対して、ロックファイルが競合する。
6378545	JSP 検索コレクションの更新時に、JSP ファイルを更新するとインデックスの再作成が失敗する。
6280778	Web Server 6.1 検索で、PDF のインデックスを作成できない。このエラーは、OS パッチ PHSS_28871 がインストールされた HP-UX で発生する。
6302377	サブレットコンテナの UTF-8 URI マッピングに脆弱性。
6370089	NSS 3.11.1 と Web Server 6.1 SP6 の統合。
6285129	一部の環境で、jsp:param 値で % を使用するとエラーになる。
6324034	Web Server で、アップロードファイルサイズのデフォルトの制限は 10M バイト。
6361485	Web Server 6.1 SP5 で、ユーザードキュメントディレクトリに対して htaccess が機能しない。
6350122	Windows 上の WS6.1SP5 で scheduler.conf ファイル内の文字化けが原因で、Cron ベースのログローテーションが失敗する。
6388243	Web Server 6.1 SP4 (Windows) に CRL をインストールすると、管理 GUI の CKL セクションに追加される。
6377343	NSS 3.11.1 を使用すると、RFC3280 に述べられた PolicyConstraints のような新しいクリティカルな拡張子の付いた証明書を証明書データベースにインポートできる。
6376634	magnus.conf で SSL3SessionTimeout または SSLSessionTimeout をユーザー定義の値に設定すると、SSL セッションが期待通りにタイムアウトしない。NSS 3.11.1 で magnus.conf 指令 SSL3SessionTimeout および SSLSessionTimeout が修正された。

6.1 SP5 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP5 において解決された問題を一覧表示します。

表 8 Sun Java System Web Server 6.1 SP5 において解決された問題

バグID	説明
6322443	<p>NSFC バッファサイズは設定可能である必要がある (64 ビット)。</p> <p>追加情報: ファイルの内容をキャッシュミスを転送するために使用するバッファのサイズを設定するには、新しい <code>BufferSize nsfc.conf</code> 指令を使用します。バッファサイズをデフォルトの 8192 バイトから 16384 バイトに増加するために、以下の指令を <code>nsfc.conf</code> に追加できます。 <code>BufferSize=16384</code></p> <p>バッファサイズを大きくすると、待ち時間およびメモリー利用量は増加しますが、スループットは向上できる場合があります。</p>
6234284	<p>管理パスワードに ;、\$、&、^、*(.)、 、<、>、'、'、"、\ などのシェルメタ文字が含まれる場合に、JES3 Web Server のインストールが失敗し、コアダンプが出力される。</p>
6232465	<p>HP-UX Web Server ビルドに <code>-N</code> リンカーオプションを含める。</p>
6171389	<p>Keep-Alive を使用すると、最初の HTTP 要求に対してのみ入力フィルタが呼び出される。TCP 接続のその後のすべての要求は、フィルタによって処理されない。</p>
6195820	<p>load-on-startup サブレットにグローバルリソースを使用できない。</p>
5042600	<p>6.0 SP7 Web Server インスタンスを 6.1 SP2 に移行できない。</p>
6244615	<p>Web Server の移行で、RootCerts が正しく更新されない。</p>
6219618	<p>JES Web Server 6.1 SP2 は、検索コレクション作成のための PDF バージョン 1.5 (Acrobat 6.x) ドキュメントの索引化に失敗する。</p>
6239342	<p>デフォルトのエラーページでのクロスサイトスクリプティングの脆弱性。</p>
4879994	<p>SSL: 要求が新しい SSL ハンドシェイクを起動すると、8k を超えるデータが失われる。</p> <p>追加情報: デフォルトで、Web Server は最大 1M バイトのサイズのファイルをアップロードできます (クライアント証明書認証がオプションの場合)。1M バイトより大きいファイルをアップロードするには、<code>magnus.conf</code> ファイルの <code>SSLClientAuthDataLimit</code> の値を増やします。非常に大きなファイルを同時にアップロードすると、Web Server が大量のメモリーを消費します。メモリーの使用量を最小限に抑えるには、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 認証が不要な場合は、認証をオフにします。 ■ 認証が必要な場合は、<code>obj.conf</code> に <code>require=1</code> を設定して、必須にします。 <p><code>PathCheck fn="get-client-cert" dorequest="1" require="1"</code></p>
6229472	<p><code>.htaccess</code> 指令が壊れている。</p>
6170938	<p>ユーザードキュメントディレクトリに対して、<code>acceptlanguage</code> が機能しない。</p>
6180991	<p>2G バイトより大きいファイルに対して、内部デーモンログのローテーションが機能しない。</p>

表 8 Sun Java System Web Server 6.1 SP5 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6254121	.htaccess は対応するファイルがないリソースの保護に失敗する。
6185904	新しい NSS エラーコードが正しく処理されていない。
6262885	HTTPS から HTTP に切り替えると、新しいセッションが生成される。 追加情報: Web アプリケーションの sun-web.xml で、cookie-properties の下の Web アプリケーションのセッション Cookie の isSecure 属性を true または false に設定します。デフォルト値は true です。 次の例では、パラメータ値を false に設定して、Web アプリケーションの isSecure を false に設定しています。 <pre><session-config> <cookie-properties> <property name="isSecure" value="false"> </cookie-properties> </session-config></pre>
6222728	Microsoft Windows 2000 プラットフォーム上の Web Server 6.1 SP2/SP3 で SNMP サービスが失敗する。
6273472	Web Server 6.1 SP4 アンインストールスクリプトでエラーメッセージ「ファイルもディレクトリもありません。」が表示される。
6259257	一部の PDF ファイルで、検索エンジンによる索引化が失敗する。
6253489	JSP に入れ子の include が存在すると、ApplicationDispatcher の ClassCastException がスローされる。
6285847	二重の Content-Length ヘッダーがある要求が拒否されない (HRS の脆弱性)。 回避方法: magnus.conf に StrictHttpHeaders 指令を追加し、値を on に設定します。
6275413	ホームページ SAF の設定が誤っていると、サーバーがクラッシュする。

6.1 SP4 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP4 において解決された問題を一覧表示します。

表9 Sun Java System Web Server 6.1 SP4 において解決された問題

バグID	説明
6021153	<p>必要なパッチ ID 112396-03 が存在しない。</p> <p>以前のリリースノートで必要と表示されているパッチ 112396-03 は正しくありません。</p> <p>正しいパッチ番号は 112396-02 です。</p> <p>「推奨 & セキュリティーパッチ」セクションで入手可能な、Sun の推奨パッチクラスタをインストールする必要があります。http://sunsolve.sun.com</p> <p><i>Solaris 8 (SPARC)</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris 8 Update 7 ■ Sun 推奨の最新セキュリティおよび推奨パッチクラスタ <p><i>Solaris 9 (SPARC および x86)</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris 9 Update 4 以降。 ■ Sun 推奨の最新セキュリティおよび推奨パッチクラスタ
6066252	AKI 拡張子付きのクライアントの証明書が原因で SEC_ERROR_UNKNOWN_ISSUER エラーが発生する。
6092498	クライアントの証明書にチェコ語の文字が含まれる場合、Web Server 6.1 は LDAP によるクライアントの証明書の検証に失敗する。
6171311	Jdk1.5 で Web Server を実行するとエラーが頻繁に発生する。
6171784	特定のエラーロギング設定に関連する Web Server のパフォーマンスの問題。
4925875	韓国語の HTML コレクションについて、韓国語ではアスタリスクを使用した検索を行えない。
6171950	<p>プリコンパイルされた JSP ファイルが sun-web.xml 内の reload-interval パラメータの期待どおりに動作しない。</p> <p>回避方法: JSP ファイルがプリコンパイル済みであり、実行時にコンパイルする必要がないことを示すために、sun-web.xml 内の jsp-config でプロパティ use-precompiled を true に設定して使用します。</p> <p>sun-web.xml の例</p> <pre><sun-web-app> <session-config> <session-manager> </session-config> <jsp-config> <property name="use-precompiled" value="true" > </jsp-config> </sun-web-app></pre>

表 9 Sun Java System Web Server 6.1 SP4 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
5048940	SP1 からのアップグレード後に、管理 GUI 内の「Superuser Access Control」ページにアクセスできない。
6177544	プラグインの RPM インストール後に libpassthrough.so が存在しない。
6176231	Sun Java System Web Server 6.1 SP4 — NSS 3.9.3 ベータ版で、証明書を削除する管理 GUI (bin/https/admin/security) がコアダンプを生成する。
6173365	Solaris SPARC/x86 プラットフォーム対応の Web Server の同じビルド用に複数のパッケージインストーラがある。
5039633	NSS を 3.9 シリーズに更新する。
5063134	J2SE の場所に対して Java Enterprise System シンボリックリンクが使用されない。
6067407	ACL_LDAPSessionFree() の使用の問題。
6173293	Web Server はサーブレットのフィルタが設定されたときにコンテンツタイプを常に text/html に設定する。
6176264	Web Server 6.1 SP4 Solaris x86 が管理 GUI から SSL インスタンスを開始できない。
6180677	JES3 用の Web Server SP4 を JES2 用の Web Server SP2 上にアップグレードできない。
6066139	JDK1.5_beta2 リリースで Web Server を実行している間は、テストが失敗する。
6088595	JDK 1.5.0_beta2 で、クラスの作成中および編集集中に管理コンソールが例外をスローする。
4904913	I18N 検索: 「?」のワイルドカードを使用して日本語の検索を行なうと誤った結果が得られる。

6.1 SP3 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP3 において解決された問題を一覧表示します。

表 10 Sun Java System Web Server 6.1 SP3 において解決された問題

バグ ID	説明
4798461	「転送ファイル」をオフに設定しても、GUI に設定が正しく反映されない。
4904896	I18N 検索: 検索管理 GUI 上の「Default Encoding」のエンコーディングリストのソート。
4905412	GUI がキーファイルデータベース内でユーザーの管理を許可しない。

表 10 Sun Java System Web Server 6.1 SP3 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4991338	Web Server 管理コンソールにすべてのタブが表示されない (Mozilla ブラウザで)。
5001819	Web Server 6.1: NOVA 検索エンジンがドキュメントのピックアップに失敗することがある。
5014693	Java フィルタ、HTTP 圧縮、および SHTML が連携に失敗する。
5021077	Directory Server を選択せずに「OK」ボタンをクリックすると、 <code>java.lang.NullPointerException</code> がスローされる。
5025617	Web Server の JNDI が、 <code>sun-web.xml</code> からの <code>resource-env-ref</code> をマップする必要がある。
5042676	Client タグコード = 302 で要求フローの問題が発生する。
5056989	セッション ID へのホスト名プレフィックス付加の有効化。 Web アプリケーションのセッション ID へのホスト名のプレフィックス付加を有効にするには、Web アプリケーションの <code>sun-web.xml</code> で、 <code>manager-properties</code> の下のプロパティ <code>prefixSessionIDWithHostname</code> の値を <code>yes</code> 、 <code>true</code> 、または <code>on</code> のいずれかの値に設定します。 以下の例では、パラメータの値を <code>true</code> に設定することによって、セッション ID へのホスト名プレフィックスの付加を Web アプリケーションに対して有効にしています。 <pre><session-config> <session-manager> <manager-properties> <property name="prefixSessionIDWithHostname" value="true"> </manager-properties> </session-manager> </session-config></pre>
5057749	Web Server 6.1 SP2: <code>certmap.conf</code> に定義されているプラグインが読み込まれない。
6041356	<code>magnus.conf</code> で <code>AdminLanguage</code> または <code>DefaultLanguage</code> 、あるいはその両方が指定されるときにメモリーリークが発生する。
6057426	ロードバランサプラグイン(以前の Resonate プラグイン) <code>loadbal.so</code> が Solaris SPARC プラットフォーム上で機能しない。 <code>loadbal.so</code> プラグインの場所は次のとおりです。 <code>server-root/plugins/loadbal.so</code> 。
5065017	サーブレットセッションデータの問題が発生する。
5048051	RPM インストールの Linux 上でコレクションの作成に失敗する。
5029954	<code>ConnQueueSize/RqThrottle</code> が 0 のときにスタックサイズが無視される。
4898077	HttpServerAdmin および iWS コンソール間の動作に一貫性がない。

表 10 Sun Java System Web Server 6.1 SP3 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
5013100	2500 と 02500 のような 2 つのポートが、server.xml 内に別個のポートとして追加される。
5046634	<p>HTTP ヘッダーおよびプラグインプログラムの 2 バイト文字。</p> <p>応答ヘッダーのエンコーディングを Web アプリケーションレベルで有効にするには、Web アプリケーションの sun-web.xml で、設定パラメータ use-responseCT-for-headers の値を yes、true、または on のいずれかに設定します。</p> <p>以下の例では、パラメータの値を true に設定することによって、Web アプリケーションの応答ヘッダーのエンコーディングを有効にしています。sun-web.xml の例</p> <pre><sun-web-app> <parameter-encoding form-hint-field="j_encoding"> <property name="use-responseCT-for-headers" value="true" > <session-config> <session-manager> </session-config> <jsp-config> </sun-web-app></pre>

6.1 SP2 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題を一覧表示します。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題

バグ ID	説明
4536102	I18N: Solaris の Netscape で SNMP コミュニティー名が表示されない。
4536194	CGI サブシステムが NSPR ユーザースレッドからの呼び出しをブロックする。
4536739	管理 ACL およびスーパーユーザー AC: 「Allow only from host」オプションが機能しない。
4615933	CORE SHTML: .shtml ファイルに Content-encoding を設定できない。
4629796	フランス語のスレッドプール名が、JA-NT では文字化けしてしまう (Internet Explorer および Netscape)。
4651056	「..」で始まるファイルに対して、Web Server が 404 を返す。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4651206	新規の MIME タイプファイルを追加すると、追加したことを GUI から確認する方法がない。
4651207	「Document preference」 Web ページで、エラーの応答に使用するファイルを用意する必要がある。
4652009	アクセスログファイルのカスタマイズが「View Access Log」タブの GUI 表示に反映されない。
4657465	Cookie のエンコーディングを無効にする必要がある。 デフォルトで Sun Java System Web Server の URL では、Cookie をクライアントに送信する前にエンコードします。Cookie をエンコードしないようにするには、以下のコードを sun-web.xml に追加します。 <pre><property name="encodeCookies" value="false"></pre> 上の例の場合、sun-web-app タグの下に直接行を挿入します。この行にどのようなタグも埋め込まないでください。
4664945	URL 転送の設定で内部エラー。
4666409	ErrorResponse CGI ファイルの名前の消去。
4676934	分散管理: Web Server 6.0 SP2 で、デフォルト ACI がオーバーライドされる。
4676946	仮想サーバーの設定形式を検証しない。
4676950	URL 転送の設定で http:// を削除すると内部エラーが発生する。
4682434	環境変数を取得するスクリプトがある CGI の実行に失敗する。
4682894	クラスタ管理 - ソースサーバーを選択すると、ターゲットサーバーが選択解除される。
4684775	非同期 DNS がデフォルトで無効になっている。
4707989	Web-application/JSP: JSP ファイルで load-on-startup が機能しない。
4704385	クラスタ: リセット後すぐに「OK」をクリックすると、クラスタの変更時に NULL メッセージが表示される。
4705181	ユーザーとグループで、ユーザーを検査せず、CGI では空白文字が受け入れられる。
4705204	削除を選択しても、新規に追加した ACL ファイルが削除されない。
4706063	chroot およびディレクトリが正しく検査されない。
4711353	管理画面の「Global SNMP Master Trap Warning」に「Form Element Missing: manager?」と表示される。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4718914	証明書をインストールしなくても、任意のインスタンスサーバーでセキュリティーがオンになる。
4724503	GUI の「Edit listen socket」で IPv6 を有効にすると、サーバーが起動しない。
4727597	ポートが重複した新規サーバーを追加すると、管理 GUI の表示が乱れる。
4721021	SSL 対応サーバーで、絶対 URI にアクセスできない。
4727444	アクセスログで、間違ったデータがレポートされる。
4732877	urlhosts フィールドに複数のホスト名を使用できない。
4745314	VSCLASS の Docroot にある \$id 変数が Microsoft Windows では機能しない。
4749239	ACLI: ACL の処理が正しくない。
4753601	magnus.conf の MaxRqHeader 指令が、想定どおりに動作しない。
4754934	Web Server 6.0 の Vignette NSAPI プラグインが、HTTP 1.1 の使用時は正しく機能しない。
4761188	<p>LDAP: ACL の LDAP ダイナミックグループパフォーマンスの向上。</p> <p>パフォーマンス上の理由から、新たな LDAP 設定パラメータ <code>dyngroups fast</code> が SP2 で導入されました。このパラメータを使用すると、Web Server がグループメンバーシップに関して、ダイナミックグループ間で入れ子になった個別メンバーを省略することを表明します。</p> <p>たとえばユーザー <code>alpha</code> がグループ A に属していて、グループ A はグループ B の <code>memberURL</code> 定義 (ダイナミックグループ) によってグループ B のメンバーであるとします。また、ユーザーの ACL には、グループ B へのアクセスだけが付与されているとします。このとき、Web Server は <code>alpha</code> からのアクセスを拒否します。<code>alpha</code> はグループ B のメンバーでないと見なされているためです。</p> <p>入れ子のグループをサポートする場合は、LDAP 認証サービスで、この新規設定を定義しないでください。結果的に、パフォーマンスを向上することができなくなります。設定ディレクトリの例:</p> <pre>ldapregular ldap://localhost:389/o=TestCentral ldapregular: dyngroups fast</pre>
4763653	ドキュメント設定ページのフォーム要素に検査が必要。
4764307	Magnus.conf: パフォーマンス設定: 負の数値を受け付ける。
4765709	管理画面: 「Configure Directory Service」で <code>binddn/password</code> を検査しない。
4770294	Microsoft Windows 上の Web Server 6.1 で、アクセスログの行末に CR 文字を追加しない。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4786612	Web Server で、「:」(コロン)をホスト名またはIP とポートの区切り文字として扱う箇所がある。「:」がIPv6 アドレスの一部に使用されるときに認識されるように、このコードを更新する必要がある。
4787310	SmallFileSpace の値が小さく設定されると、NSFC での占有開放に失敗する。
4788075	Web Server 6.0 SP5 で、magnus.conf の PATH 変数の設定が機能しない。
4800173	多くの仮想サーバーと連動する大きな ACL ファイルでのパフォーマンスの問題。
4808402	ネイティブオーセンティケータのサポート。
4814097	GUI のプログラムグループで、プログラム項目として none を選択できない。
4822720	キープアライブサブシステムが動的に調整されない。 キープアライブサブシステムでは、パフォーマンスを最適化するための調整が必要です。Web Server 6.0 では、このサブシステムが高負荷にあわせて調整されていたため、同時に発生したキープアライブ接続が多くないときは、パフォーマンスが良くありませんでした。Web Server 6.1 SP2 ではキープアライブサブシステムが変更され、実際の負荷にあわせて動的に調整されるようになりました。
4849907	実行権が設定されず、構成されていないのに、shtml が構文解析されてしまう。
4855807	AIX: watchdog による再起動後に、Web Server がハングする。
4858152	移行されたインスタンスの server.xml ファイルのアクセスログエントリが、無効なパスを示す。
4869527	SNMP: RH Linux 6.2/7.2/Adv Server 2.1 および Sun Linux 5 で、テストが失敗する。
4862498	新規のディレクトリサービス画面がインタフェースに接続されない。
4870613	Netscape Navigator 7 のフレームで「戻る」ボタンが動作しない。
4873766	要求がチャンクされてしまい、upload-file SAF が正しく機能しない。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4882838	<p>生成されたリダイレクトで、URL のプロトコルを指定できない。</p> <p>サーバーは、クライアントにリダイレクトを送信するときは、自己参照 URL を生成します。Web Server 6.1 SP1 以降では、サーバーの生成した自己参照 URL で使用されるスキーマの設定で、server.xml 内の LS 要素の servername 属性が使用されます。</p> <p>たとえば SSL オフローダーがインターネットと Web Server インスタンスの間に配置されていて、このオフローダーが http://www.sun.com に対する SSL 暗号化されたトラフィックを複合化し、Web Server のポート 8080 にリレーしているとします。このとき、以下のような LS 要素が server.xml に含まれています。</p> <pre><LS remap="ls1" port="8080" security="disabled"... servername="https://www.sun.com"></pre> <p>servername 値の https:// プレフィックスは、LS が SSL トラフィックを処理するように設定されていない場合でも、自己参照 URL で https スキームを使用するようにサーバーに指示しています。</p>
4889081	内部ログローテーションで、空のログが作成される。
4894033	分散管理: 管理者 ACL の機能「Allow only from host/IP」がドキュメント単位でない。
4896881	Web Server の一部を展開するために untar を使用すると、所有者およびグループの情報が正しくない。
4897074	Linux のみ: コレクションを作成したとき、PDF ファイルのインデックスが作成されず、コレクションに追加されない。
4899105	「Edit Virtual Server」 ページで接続値の強調表示が正しくない。
4905175	WebDAV ACL 設定が、新しい仮想サーバーに継承される。
4909378	「WebDAV 編集」 ページの「Help」 ボタンが、正しいヘルプページを指していない。
4903449	マルチプロセスモードで 1 スレッドしかない場合に、パフォーマンスが影響を受ける。
4905681	<p>AsyncDNS 設定が Sun Java System Web Server 6.1 SP1 において無視される。Web Server は、非同期 DNS 検索を実行しない。</p> <p>magnus.conf で AsyncDNS が on であっても、非同期 DNS は off のままです。</p>
4908631	実行していないサーバーを停止させようとする、エラーメッセージ状態が返される。
4907288	クラスタ管理ファイルの転送が Microsoft Windows で機能しない。
4909678	Web Server 6.1 ダイジェスト認証が、フラットファイルには機能しない。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4910266	Web Server 6.1: GUI でダイジェストファイルユーザーを作成すると、指数関数的にユーザーが増える。
4904088	移行の最後のページで、HTML の「<」および「>」文字をエンコードする必要がある。
4908986	JDBC: サブレットコード <code>uploadServlet</code> が SQL 例外で誤った処理を行う。
4904896	I18N 検索: 検索管理 GUI 上の「Default Encoding」のエンコーディングリストのソート。
4908010	新しく作成された仮想サーバーの検索コレクションを削除できない。
4908401	I18N: 検索結果のドキュメントのタイムスタンプがローカライズされていない。
4910222	バックスラッシュを含むドキュメントルートを持つコレクションを作成しようとすると、Microsoft Windows 上でエラーが発生する。 回避方法: この問題は、バックスラッシュを含む、またはスラッシュとバックスラッシュが混在したドキュメントルートを指定した場合に発生します。スラッシュを使用してください。
4911548	重複する検索コレクションを作成すると、サーバーが <code>ConfigurationException</code> を返す。
4911656	I18N: マルチバイト文字の検索で、「日付順に表示」リンクに移動できない。
4913909	i18n: ハングル文字のファイル名を使用したファイルを追加すると、読み取り権がないためスキップされ、エラーになる。
4913228	<code>jdbcRealm</code> サンプルアプリケーションの Oracle スクリプトで、引用符がない。
4910869	NSFC の拡張が必要。 <code>ReplaceFiles nsfc.conf</code> 指令を追加します。 <code>ReplaceFiles=true</code> (デフォルト) の場合、既存のファイルキャッシュの動作が維持されます。 <code>ReplaceFiles=false</code> の場合、ファイルがキャッシュされると、そのファイルキャッシュエントリは、別のファイル用に領域を空けるために破棄されなくなります。ヒットリストのロックで、競合を避けることができるため、この設定はベンチマークシナリオで有用です。
4910272	新規サーバーの追加中に、ドキュメントルートでスラッシュの混在をサーバーが受け入れてはいけません。
4912254	<code>.env</code> 内の <code>set -o noclobber</code> が原因で、Web Server のインストールが失敗する。
4911070	Web Server 6.1: 「Add listen socket」の「protocol family」フィールドが、IPv6 アドレスに存在しない。
4911630	Magnus Editor のフィールドの多くが負の整数値を受け入れてしまうため検査を行わない。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4911550	追加ドキュメントでサーバーにアクセスしようとする時、ServletException が発生する。
4911633	ユーザーの「Change Password」が機能しない。
4913566	「URL Forwarding Editing」ページに矛盾がある。
4919473	管理 GUI から「Security Realm」プロパティを更新しても、server.xml に反映されない。
4913289	「Edit Virtual Class」のヘルプで、vs クラスを削除するときの条件がすべて示されていない。
4916331	キーペアライブ接続が軽負荷でもハングすることがある。
4925475	server.xml の createconsole 属性が無視される。
4925938	ユーザーが vs 管理 URL を誤って編集してしまうと、Null ポインタ例外が発生する。
4929848	パフォーマンス: Web Server が kstat を 1 秒に 1 回ポーリングする。
4926414	I18N-korean: 既存のドキュメントが 1 つ以上失われている場合に、コレクションのインデックスを再作成するとハングする。
4935797	certmap.conf ファイルの場所の表記が誤っている。
4930327	MOVE/COPY 要求で、destination ヘッダーが URL エンコードされない。
4933483	SIGCHLD シグナルが起動時にレポートされる。
4935582	AF_NCA で TCP_NODELAY を設定する必要はない。
4930642	ファイルの mime.types エントリがキャリッジリターンで終わっていない場合は、ソースが返される。
4930329	maxpropdepth のデフォルト値が間違っていて選択されている。
4932995	管理 GUI から Web アプリケーションを削除すると、先頭の「/」が取り除かれてしまう。
4935420	移行後の 6.1 インスタンスで、制限アクセスのリソースピッカーがエラーになる。
4944850	Web Server 4.1 から 6.1 への移行で、アドレス指令が正しく移行されない。
4946829	管理画面: 移行後に新規仮想サーバーを作成すると \$user: が値を発見できない。
4941027	Web Server の管理インタフェースでのクロスサイトスクリプティング。
4948397	Web Server 6.1 SP1 の SNMP が機能しない。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4946187	分散管理: 分散管理を有効にしたあと、ACL を「allow authenticated user」だけに設定しても、サーバーは管理者グループ内のほかのユーザーへのアクセスを許可する。
4947005	Solaris x86 プラットフォームで「Add server instance」が機能しない。
4940040	管理者の「Configuration File Reference」で、存在しない TYPE 要素を定義している。
4942750	検索の例が間違っている。
4943631	スレッドプール設定ファイルの説明が間違っている。
4941741	Solaris 8 上の Web Server 6.1 SP1 サーバーで、libcld.so が原因で起動に失敗する。
4945994	fc_net_write が単一システムコールにならない。
4940418	バイトコードの計測のためのサードパーティー製プロファイラのサポート。
4943329	IWSSessionManager が、Web Server 6.1 では期待通りに動作しない。
4947065	検索 Web アプリケーションで、最大でも 11 コレクションしか表示されない。
4947624	Microsoft Windows でインデックスの再作成をすると、意味のない警告メッセージが表示される。
4950552	特定の出力結果で、間違った番号が付けられる (11、21、31...)
4954789	ClassCastException で Web Server の配備に失敗する。
4956415	Web Server 6.1 検索: meta タグの description を表示できるように要求される。
4950644	Linux で重複コレクションを作成すると、意味のない警告メッセージが表示される。
4951860	httpagt が NETSITE_ROOT 変数に依存する。
4957158	x86 ビルドの specweb99 を実行すると、fc_open が失敗する。
4952492	MOVE メソッドが、可能なときにファイルをリネームしない。
4958571	PR_NetAddrToString のパフォーマンスが想定以下である。
4951264	Java でトリガーされた再設定とサーバーのシャットダウン中に、Web Server がクラッシュする。
4958755	ServletContext.getContext(String) をルートコンテキストから呼び出すと、ほかのコンテキストを返さない。ルートコンテキストが返される。
4950653	QoS の vsclass 値に「Null」が表示される。
4951982	不正なクレデンシャルを使用して LDAP を設定すると、「Invalid error」メッセージが表示される。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4953147	管理者ユーザーが root で、インスタンスが root でない場合、cron ベースのログローテーションが失敗する。 回避方法: scheduler.conf ファイルで、管理サーバーユーザーと同じユーザーに変更してください。
4961864	rotate-callback を使用すると、Web Server がハングする。
4962059	setup.inf に管理者のパスワードがプレーンテキストで格納される。
4969637	send-error SAF に、軽微のコードディングエラー。
4961999	仮想サーバーの追加後、上部フレームのドロップダウンボックスに仮想サーバーが表示されない。
4962624	管理画面: 「Edit Listen socket」 のプロトコルの値を検査しない。
4963483	ACL ファイルパスにスラッシュ(/) が含まれると、GUI が乱れる。
4968422	WebDAV 画面で、ブラウザに 「invalid ACL file」 と表示される。
4966497	「Average Queueing Delay」 の 「Perf Dump」 データが正しくない。
4970955	Apache サンプル (\plugins\java\samples\webapps\simple) のクロスサイトセキュリティの問題。
4972573	Web Server 6.1 SP1 の、web-apps-sample サンプルアプリケーションで不正な動作。
4972587	国際化サンプルアプリケーションの index.html で指示が誤っている。
4976454	Web Server 6.1 に同梱のサンプル。
4970273	FastCGI ベータライブラリが RTM Web Server パッケージに含まれている。
4976953	AIX 6.0 SP6: 適切なグループアクセス権があるファイルで、GET 操作の禁止エラーが発生する。
4976490	ログメッセージが切り捨てられる。
4975675	サーバーのロード中は、動的再構成に失敗する。
4976910	エントリが存在しないと、NSFC_GetEntryPrivateData() が NSFC_ExitCacheMonitor() を呼び出す。
4973079	GUI で、使用されなくなった無効なポートエントリが保持され続け、「servername」 フィールドの検査に失敗すると、そのエントリの値が使用される。
4975788	Internet Explorer を使用して編集した classpath が壊れ、サーバーの JVM™ が起動できない。
4975798	Web 管理を使用して、classpath サフィックスにパスを追加できない。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4975782	外部 JNDI 参照を削除できない。
4970188	RPM がシステムの umask を特定できない。
4971298	Java ES で Web Server パッケージの pkgchk -n が失敗する。
4986761	Web Server 6.0 の移行に失敗する。
4989231	Linux プラットフォームでサーバーが起動に失敗する。ビルド中の JDK パスが間違っている。
4988104	「Edit Virtual Servers」 ページで、接続の値が正しく更新されない。
4986700	サブレットフィルタを使用すると、Last-modified および Etag が抑制される。
4991888	キーファイル設定で間違ったファイル名が格納される。
4992739	classpath サフィックスを変更すると、Web Server のインスタンスを開始できない。
4995447	Web Server 6.1 SP2 (Red Hat Linux) で、管理 GUI にアクセスできず、ログイン後にエラーメッセージが表示される。
4995489	Solaris x86: 分散管理を有効にできない。
4991775	Cookie のサンプルサブレットでの Cookie 名検査。
5002905	分散管理が有効でなくても、「Superuser Access Control」を設定できない。
5012107	不正なプラグインを使用すると、POST 要求の本文が2回コンシュームされる。
4962659	検索条件が 100 文字に切り捨てられる。
4967580	検索で、SSL 対応インスタンスのリンクが間違っている。
4970181	Stellent フィルタを Linux および Solaris x86 ビルドに追加する必要がある。
4975327	nova 検索の indexMetatags が自動的に設定されない。
4975367	meta タグのインデックス作成で大文字小文字が区別されない。
4997149	*.* パターンでドキュメントを削除しても、excludeExtensions プロパティが設定されていると、削除されないファイルがある。
4997178	excludeExtensions が設定されていると、.sxx ファイルのインデックス作成中にサーバーが NULL ポインタ例外を返す。
4997697	検索結果ページで、ページ番号が正しく表示されない。
4844616	bswitch が正しく設定されていないため、クラッシュする。
4854698	誤った形式の要求によるプラグインクラッシュ。
4866965	ACLI: 失敗した認証が、サーバーのエラーログファイルに 2 回記録される。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4880864	ACL: ACL でアクセスを拒否していると、Web Server が「404 Not found」エラーを返す。
4915326	WEBC: <i>signedBy</i> アクセス権を Jar ファイルに付与できない。
4918754	Web Server 6.1 で、8 ビット文字セットの HTTP URL GET パラメータを処理できない。
4924921	Microsoft Windows 2000 で JDK 1.3.1 を使用している場合、JVM の最大ヒープサイズを 800M バイトに設定できない。
4926336	JSP パラメータの値で % を使用すると、クエリー文字列が破損する。
4927770	libjvm 内からの SIGABRT でサーバーが異常終了する。
4928358	JSP エラーが、「Not Found」エラーとして誤ってレポートされる。
4930374	sun-web.xml 内の class-loader 要素で extra-class-path 属性が想定どおりに動作しない。
4932893	動的再ロードが、Web アプリケーション記述子ファイル (web.xml など) には機能しない。
4939370	Web コンテナのスレッド名が一意ではない。
4934083	LDAP: LDAP 認証中にクラッシュする。
4934562	WEBC: スタンドアロンの JSP ファイルでは getRemoteUser() が動作しない。
4935669	WEBC: クライアントの証明書データが要求に含まれるとは限らない。
4935570	証明書データが利用できる場合でも存在しないことがある。
4932547	Tomcat AuthenticatorBase が 403 でなく 500 を返す。
4946762	Out-of-box のデフォルトレルムがネイティブでない。
4948123	Web Server 6.1 が、特定の状況で、クライアントのキーサイズを正しくレポートしない。
4949842	WEBC: コア認証を使用すると、isUserInRole() が一致しない。
4957829	LDAP: 基本認証で、UID にワイルドカード「*」を使用できる。
4960013	LDAP レルムを複数設定できない。
4968857	htconvert で .nsconfig のワイルドカードパターンを正しく変換しない。
4968882	6.1 形式の server.xml で htconvert が機能しない。
4960873	セッションが 2 つのスレッドで同時に期限切れになると NPE が発生する。
4973927	EPIPE シグナルが OutputStream.write() から IOException として捕捉されない。

表 11 Sun Java System Web Server 6.1 SP2 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4976277	LDAP プールに JDK 1.4.1 付属の JNDI 接続プールを使用する。
4983707	ログレベルを「Security」に変更すると、起動時に NullPointerException が発生する。
4981028	web.xml の「distributable」セマンティクスを Web コンテナが受け入れない。
4993468	getResourcePaths が、「//」を含むパスを返す。
4996219	RedHat Linux Advance Server 3.0 で webservd がメモリーリークする。
4997593	NSAPI の srvhdrs と HttpServletResponse ヘッダーの間の統合に問題がある。
4997756	LOCK-UNLOCK が正しく動作せず、UI はロック情報を正しく表示しない。
4997838	「Security」を on にすると、RedHat Linux AS 3.0 で Web Server が起動しない。
5003531	transport-guarantee=CONFIDENTIAL のときに、SSL 以外のポートから Web アプリケーションにアクセスすると 500 エラーが発生する。
5004542	ASN.1 構文解析バグ / brute forcer プログラムで Web Server がクラッシュすることがある。
5016494	NSS: 証明書が破損していると、DER_UTCTimeToTime でクラッシュする。

6.1 SP1 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 SP1 において解決された問題を一覧表示します。

表 12 Sun Java System Web Server 6.1 SP1 において解決された問題

バグ ID	説明
4642650	<p>サーブレットまたは JSP コンテナに絶対 URL を追加できないようにするオプションが必要。</p> <p>修正の詳細: sun-web.xml に新しいプロパティが追加されました: relativeRedirectAllowed デフォルト値: false</p> <p>説明: true の場合、HttpServletResponse.sendRedirect() API を使用して Web アプリケーションが相対 URL をクライアントに送信できるようにします。つまり、コンテナが相対 URL を完全指定 URL に変換しないようにします。</p>
4793938	Server Manager の GUI から遠隔ファイル操作を有効にすると、すべての遠隔ユーザーがサーバーの URI 領域にあるディレクトリのリストを取得できるようになる。

表 12 Sun Java System Web Server 6.1 SP1 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4904201	付属以外の JDK が存在するサーバーを追加したとき、javahome パスが誤って設定される。
4911580	新しいサーバーインスタンスを追加すると、問題が発生し、サーバーエラーメッセージが表示される場合がある。
4928794	PUT によって NULL のリソースを作成しようとするサーバーが再起動する。
4929913	<p>検索エンジンによって PDF ファイルの FTS 情報が抽出およびインデックス作成されない。</p> <p>修正の詳細:この修正は、Linux 以外のサポートされたすべてのプラットフォームに適用されます。</p> <p>Author、Subject、Keywords という meta タグには常にインデックスが作成されます。PDF ファイルの FTS_* 属性を変換したときに作成される meta タグも含め、任意の meta タグのインデックスを作成できるようにする機能が追加されました。server.xml において、新しい設定を次のように手動で構成する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ server.xml の SEARCH セクションに、name="indexMetatags" と設定された PROPERTY を追加します。値をコンマで区切られた meta タグ名のリストにするようにしてください。Author、Subject、Keywords という meta タグは、この設定に関係なく常にインデックス作成されます。 ■ PDF およびその他のドキュメントを変換して作成される meta タグにインデックスを作成するには、この構成で、特定のドキュメントタイプのフィールド名ではなく、meta タグ名を使用する必要があります。たとえば、PDF ファイルの FTS_Title コンテンツにインデックスを作成するには、次のように "Title" を "indexMetatags" 設定のコンポーネントにする必要があります。 <PROPERTY name="indexMetatags" value="Title"> <p>注 - 検索結果にカスタム meta タグ情報を表示する方法の詳細は、バグ ID 4956415 を参照してください。</p>
4933935	Solaris 9 release: パッケージベースのインストールで reconfig が機能しない。
4945089	<p>SSL での ASN.1 解析問題</p> <p>Web Server で使用される SSL プロトコルの実装において識別された問題で、サービス拒否攻撃の対象になる可能性があります。この問題は Sun Java System Web Server 6.1 SP1 で修正されています。Web Server を使用して SSL バージョン 3 または TLS を使用するサイトをホストする場合は、このサービスパックのインストールを強くお勧めします。</p>
4950388	reconfig コマンドが Microsoft Windows XP で機能しない。
4964069	Microsoft Windows プラットフォーム上で commit.exe ユーティリティーがクラッシュする。

6.1 において解決済みの問題

以下の表では、Sun Java System Web Server 6.1 において解決された問題を一覧表示します。

表 13 Sun Java System Web Server 6.1 において解決された問題

バグ ID	説明
4869693	Microsoft Windows において、Web Server のインストールでは、Directory Server 5.x との共存問題のために SunONE Directory Server .dll ファイルを上書きする。
4540254	ログファイルのローテーションによって UNIX 上のサーバーの再起動が必要となるべきではない。
4727146	ログが「connection reset」エントリで満たされている。
4786735	インストーラが、外部 JDK を使用時に適切な JDK CLASSPATH/LIBPATH を設定しない。
4792721	LDAP サーバーがオフラインのときに間違ったエラーメッセージ。
4799452	sun.tools.javac.Main が廃止されている。例外によって有効な JSP ファイルが停止する。
4801874	ACL_LDAPSessionAllocate が常に LAS_EVAL_FAIL を返す。
4811418	ダイジェスト認証がクラッシュする。
4819405	digestauth プラグインによる slapd プロセスのメモリーリーク。
4820513	digestauth プラグインコードがスレッドセーフでない。
4839875	ClassCache およびドキュメントルートとして cachefs または nfs を使用したときに、Sun Java System Web Server が新しい JSP を使用するとは限らない。
4842190	Web サーバーが、15 を超える言語の Accept-Language ヘッダーを受信するとクラッシュする。
4842574	誤った形式の要求によるサーバークラッシュ。
4842601	Accept-Language ヘッダーのセキュリティー問題。
4846832	CRL がデータベースを破壊する。
4848896	digestauth プラグインが、特定の種類の要求によりクラッシュする。
4849914	特定の種類の要求による digestauth プラグインでのメモリーリーク。
4855546	ログアナライザの脆弱性。
4858026	JSP: 大量のデータをポストしたとき、getParameter でクラッシュする。
4867887	ユーザー ID に空白が含まれているユーザーの基本認証が失敗する。

表 13 Sun Java System Web Server 6.1 において解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
4903319	コレクションを作成したとき、すべてのドキュメントのインデックスが作成されて、コレクションに追加されるとは限らない。

6.1 マニュアルにおいて解決済みの問題

次の表は、英語版の Sun Java System Web Server 6.1 SP6 以降のマニュアルにおいて解決された問題の一覧です。

注 - 各国語版の Sun Java System Web Server 6.1 マニュアルでは解決されていません。

表 14 Sun Java System Web Server 6.1 マニュアル において解決された問題

バグ ID	説明
6507454	現在のマニュアルでは、Cookie 情報を記録する方法について誤った指示が示されている。
6528670	『管理者ガイド』で、コマンド行から <code>scheduLerd</code> 制御デーモンを再起動、起動、または停止する手順が記載されているべきである。
6528678	『リリースノート』と『インストールおよび移行ガイド』で、Web Server 6.1 SP7 のサポートプラットフォームについて異なる説明が記載されている。
6528682	2つのサーバーインスタンスが Windows の同じポートにバインドされている。
6543821	再起動または再構成時に、サーバーが古い待機ソケットを閉じていない。
6559753	逆プロキシプラグインのリリースノートには、「解決済みの問題」の節が含まれているべきである。
6570039	『管理者ガイド』には、次の訂正が必要である。「pk12util によるエクスポート」の節の <code>-P</code> オプションで、 <code>https-test-host</code> のあとにハイフン (-) が含まれているべきである。
6367812	オンラインヘルプで、 <code>scheduLerd</code> を再起動する手順が記載されていない。
4957123	『管理者ガイド』で、検索クエリー演算子の説明が記載されていない。
6493741	「コマンド行から <code>scheduLerd</code> を停止する方法」の手順が追加された。
6384436	逆プロキシプラグインで一部の重要なマニュアルが抜けている。
6401395	6.1 Passthrough/Fastcgi プラグイン起動メッセージが混乱を引き起こす。
6170766	Java ES のアップグレード手順で JES インストーラを使用しない。
6418693	<code>netbuf_getbytes()</code> についての説明が 6.1 NSAPI ガイドにない。

表 14 Sun Java System Web Server 6.1 マニュアルにおいて解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6472668	Web Server 6.1 Windows インストールはデフォルトで -Xrs JVM オプションを使用する必要がある。
6503463	Web Server 6.1 リリースノートに Sun 内部 URL が記載されている。
6378473	『Release Notes for Sun Java System Web Server 6.1 Add-Ons Reverse Proxy Plugin』で、 <code>validate-server-cert</code> SAF のデフォルト値が誤っている。
6391505	『インストールおよび移行ガイド』で、設定ファイルの書き込み、ルートセキュリティーのリスク、Solaris <code>net_privaddr</code> 特権についての説明がない。
6359385	『Administrator's Configuration File Reference』で、64ビットサーバーの <code>magnus.conf</code> 変数 <code>MaxKeepAliveConnections</code> の値の範囲について説明がない。
6358849	『Administrator's Configuration File Reference』で、 <code>nsfc.conf</code> 設定ファイルの <code>MaxOpenFiles</code> 属性について説明がない。
5065188 6173274	『管理者ガイド』の「詳細検索」の節では、「検索」メニューの「通過検索」オプションについて誤って説明している。このメニューオプションは利用できません。
6155266	『管理者ガイド』の設定ログレベルの説明が誤っている。
6206074	『Administrator's Configuration File Reference』の <code>ChildRestartCallback</code> 指令のデフォルト値の説明が誤っている。
6170766	『インストールおよび移行ガイド』の「Sun ONE Web Server インストールの前に」の節で、Web Server の新しいバージョンへのアップグレード方法の説明が誤っている。
6170769	『Administrator's Configuration File Reference』の <code>AdminLanguage</code> 指令に関する情報が誤っている。
6173273	『管理者ガイド』の「MIME タイプの選択」の節の下に誤植がある。
6173133	『NSAPI Programmer's Guide』の NSAPI 関数リファレンスの例が誤っている。
6173272	『管理者ガイド』では、サポートされる Java のバージョンを「1.4.1_03」と誤って記述している。
5029460	『管理者ガイド』には、誤った <code>certmap.conf</code> の設定が記述されている。
4975161	『Administrator's Configuration File Reference』には、 <code>pool-init</code> のオプションのパラメータ「 <code>block-size</code> 」の記述がない。
5002190	『管理者ガイド』には、 <code>htpasswd</code> コマンドユーティリティーに関する情報が記述されていない。
5002192	『Administrator's Configuration File Reference』の <code>logLevel</code> 属性に関する情報が誤っている。

表 14 Sun Java System Web Server 6.1 マニュアルにおいて解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
5038534	『Administrator's Configuration File Reference』のLogFlushInterval 指令のデフォルト値が間違っている。
4781137	『管理者ガイド』の次の情報が間違っている。 <ul style="list-style-type: none"> ■ libdigest-plugin.ldif のあるパスがガイドで定義されていません。 追加情報:libdigest-plugin.ldif は <code>server-root/plugins/digest/libdigest-plugin.ldif</code> にあります。 ■ ダイジェスト認証を処理するように Web Server を設定する (dbswitch.conf のデータベース定義の digestauth プロパティを設定する) 情報が記述されていますが、その実行手順は説明されていません。 ■ libdigest-plugin.so は libdigest-plugin.lib と誤って説明されています。 ■ iplanetReversiblePassword の説明がありません。
4823362	『管理者ガイド』は ACL に関する追加情報で更新する必要がある。
5046588	『インストールおよび移行ガイド』の Sun アクセラレータハードウェアのサポートされるバージョンの記述が誤っている。
5052605	『NSAPI Programmer's Guide』では、content-type を小文字にする必要があることが明確に指示されていない。
5062560	『インストールおよび移行ガイド』に start-on-boot オプションを無効にする方法が記述されていない。
6285234	『Administrator's Configuration File Reference』では、StrictHttpHeaders 指令のデフォルト値を on であると誤って説明している。
6067318	『Administrator's Configuration File Reference』の set-variable エラーパラメータの情報が不十分。
6230379	『Administrator's Configuration File Reference』の remove-file() SAF の記述が誤っている。
6208955	『NSAPI Programmer's Guide』では SERVER_SOFTWARE を MAGNUS_VERSION_STRING として誤って説明している。
6320016	『Administrator's Configuration File Reference』では、Windows での listenQ のデフォルト値について明確に定義していない。
6354681	『Administrator's Configuration File Reference』で、DNS についての詳細な説明が必要。

既知の問題点

この節では、Sun Java System Web Server 6.1 SP8 がリリースされた時点での非常に重要な既知の問題および制限を一覧表示します。問題を次のように記述します。

- 一般
- 管理
- コア
- マニュアルとオンラインヘルプ
- インストール
- 移行
- サンプル
- 検索
- セキュリティー
- ツール
- Web コンテナ
- WebDAV
- ローカリゼーション

一般

次の表に、一般的な既知の問題を示します。

表15 一般的な既知の問題

バグID	説明
6496339	<p>(Windows 2003 のみ) Web Server 6.1 SP6 で、lganalyzer.exe アプリケーションエラーによりレポート作成が失敗する。</p> <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web Server マシンにログインします。 2. <code>WSinstall\bin\https\httpadmin\bin</code> に移動します。 3. <code>flexanlg util</code> コマンドを実行して、レポートを取得します。たとえば、次のようにします。<code>C:/Sun/WEBSER-1.1/extras/flexanlg/flexanlg -F -n jwsoffice -x -i C:/Sun/WEBSER-1.1/HTTPS--2/logs/access -c hnrfeuok -t s5m5h10 -l c+5h5 -p ctl</code> <p>注-</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 上記のコマンドはひと続きの行で入力してください。 ■ <code>jwsoffice</code> を、使用しているホスト名またはIPアドレスに置き換えます。出力をHTMLファイルにエクスポートして、ブラウザを使用してそれを表示することもできます。<code>flexanlg</code> ユーティリティの詳細については、『Sun Java System Web Server 6.1 SP8 Administrator's Guide』を参照してください。
6553259	<p>Web Server 6.1 SP8 を JDK 6 を使用して実行すると、それよりも古いバージョンの JDK を使用して実行した場合とは異なる順序で検索コレクション名(チェックボックス)が検索ページに表示される。</p>
6198559	<p>JES3: Linux での Web Server のパッチアップグレードで、誤ったアンインストール通知が表示される。</p>
4988370	<p>HP-UX 11.0 プラットフォームで、特定の状況で内容が更新されない。</p>
6413819	<p>HP-UX オペレーティングシステムには、ファイルアクセス用に2つのキャッシュ領域「ページキャッシュ」および「バッファークッシュ」がある。一般に、アプリケーションが <code>mmap</code> 関数を実行すると、ファイルはページキャッシュにマップされる。</p> <p>ただし現在のところ、PRIVATE オプションを指定して <code>mmap</code> が実行されても、オペレーティングシステムが「ページキャッシュ」と「バッファークッシュ」の間でデータを同期することはない。ファイルをコピーする場合でも、オペレーティングシステムがキャッシュされたデータを更新するのは、「バッファークッシュ」内に限られる。</p> <p>回避方法: テキストエディタを使用して、毎回内容を更新します。</p>
6404983	<p>管理 GUI を使用して LDAP サーバーからユーザーおよびグループを検索すると失敗する。</p> <p>回避方法: この機能が動作するためには、Red Hat AS 3.0 update 1 — <code>uname -r: 2.4.21-9.ELsmp</code> をインストールしてください。</p>

表 15 一般的な既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
5060906	<p>インデックスファイルのない保護されていないディレクトリに対して、承認ダイアログボックスが表示される。</p> <p>追加情報:ディレクトリに <code>index.html</code>、<code>index.jsp</code>、<code>home.html</code> などのインデックスファイルがないと、ACL 認証が有効な場合に、このディレクトリが保護されていなくても、読み取りおよび書き込み権限を持つすべてのユーザーがリストへのアクセスを拒否されます。</p> <p>回避方法:6.1 の以前の動作に戻すには、匿名ユーザーにリスト権限が許可されるように、デフォルトの ACL を変更します。次のように変更します。</p> <pre>allow (read, execute, info, list) user = "anyone"</pre>
6590899	<p>Web Server が起動時に JDK 1.5 の初期化に失敗する。</p> <p>回避方法</p> <p>起動スクリプトに次のように設定します。</p> <pre>LDR_CNTRL=MAXDATA=0xB0000000@DSA; export LDR_CNTRL</pre>

管理

次の表は、管理における既知の問題を一覧したものです。

表 16 管理における既知の問題

バグ ID	説明
6543821 6531819	<p>待機ソケットを削除、またはそのポート番号を変更してサーバーを再起動または再構成した場合、サーバーが古い待機ソケットを閉じることができない。オペレーティングシステムはそのポートでの接続を受け入れ続けるが、サーバーはそのポートでの要求に対応しない。</p> <p>回避方法:古い待機ソケットを閉じ、サーバーを停止して再起動します。</p>
6301761	<p>Mozilla 1.4 および Firefox 1.0.6 で、ACL アプレットのロードに失敗する。</p>

表 16 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6021151	<p>HttpServerAdmin を使用して JNDI リソースを作成する際、LDAP ドメイン名にコンマが含まれていると問題が発生する。</p> <p>回避方法: HttpServerAdmin でプロパティ内の「,」をエスケープするには、エスケープ文字として「\\」を使用します。Windows プラットフォームでは「\」を使用します。</p> <p>プロパティ <code>java.naming.provider.url=ldap://localhost:389/ou=loggingQueues,ou=tms,ou=services,ou=abc</code> で、「,」は次に示すようにエスケープします。</p> <p><code>-property java.naming.provider.url=ldap://localhost:389/ou=loggingQueues \\,ou=tms\\,ou=services\\,ou=abc</code></p>
5007892	<p>分散管理: ACL を削除しても obj.conf が消去されない。</p> <p>回避方法: https-admserv の NameTrans をコメントアウトします。</p> <p><code>#NameTrans fn="assign-name" name="https-admserv" from="/https-admserv/*"</code></p>
5035129	RedHat Linux Advance Server 3.0 上で WS 6.1 SP2 Admin を使用して、Directory Server の user/group/ou を管理できない。
4650456	マルチバイト文字を使用すると、「View Access」および「View Error」が正しく機能しない。
4652585	<p>分散管理を有効にすると、ローカルの管理ユーザーが無効になる。</p> <p>回避方法: 分散管理のグループ内に、デフォルトの管理ユーザー名でユーザーを作成します。</p> <p>新規に作成した LDAP 管理ユーザーには、Web Server の管理ユーザーと同じパスワードを設定する必要があります。</p>
4725683	<p>ログファイルの日付スタンプが、ローカルのタイムゾーンになっていないため、正しくない日付が表示される。</p> <p>回避方法: ログファイル名の拡張子の日付をログエントリの日付にする場合は、23:59 でログファイルがローテーションするようにサーバーを設定します。</p>
4761960	<p>Web Server 6.0 SP4: SASL および匿名バインドを使用すると、分散管理を有効にできない。</p> <p>回避方法: SSL 対応のディレクトリサーバーに匿名バインドを使用しないでください。</p>

表 16 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
4841310	<p>.htaccess で認証すると、REMOTE_USER 変数を取得できない。</p> <p>回避方法: .htaccess ファイルを使用可能にすると、サーバーはリソースを提供する前に、.htaccess ファイルを確認します。サーバーはリソースと同じディレクトリおよびそのディレクトリの親ディレクトリで .htaccess ファイルを検索します。この検索はドキュメントのルートまで続けられます。たとえば「Primary Document Directory」が /sun/server/docs に設定されているときに、クライアントが /sun/server/docs/reports/index.html を要求すると、サーバーは /sun/server/docs/reports/.htaccess および /sun/server/docs/.htaccess で .htaccess ファイルを確認します。</p> <p>サーバーの「Additional Document Directories」および「CGI Directory」機能で、管理者は代わりにドキュメントルートを定義できます。代わりにドキュメントルートが存在すると、htaccess ファイルの処理に影響します。たとえば、サーバーの「Primary Document Directory」が /sun/server/docs に設定されていて、CGI プログラムが /sun/server/docs/cgi-bin/program.cgi にあるとします。</p> <p>CGI を「File Type」として有効にした場合、クライアントが CGI プログラムに要求を発行すると、サーバーは /sun/server/docs/.htaccess と /sun/server/docs/cgi-bin/.htaccess の両方の内容を評価します。</p> <p>しかし、「CGI Directory」として /sun/server/docs/cgi-bin を設定すると、サーバーは /sun/server/docs/cgi-bin/.htaccess は検査しますが、/sun/server/docs/.htaccess は検査しません。これは、「CGI Directory」で /sun/server/docs/cgi-bin を指定したことで、代替のドキュメントルートとしてマークされたためです。</p>
4865295	<p>管理インタフェースの分散管理下で、エンドユーザー管理機能がサポートされない。</p>
4882999	<p>管理GUIのページの見え目と使い心地に一貫性がない。</p>
4888696	<p>Netscape Navigator 7.0 で情報の入力が不十分な場合に、管理 GUI の「Add Server」ページが消える。</p> <p>回避方法: 「OK」をクリックする前に「Add Server」ページに完全な情報を入力してください。必要であれば、「Add Server」の GUI を復元するためにページを再読み込みするか、別のページまたは別のタブをクリックして、「Add Server」ページに戻ってください。このバグは、Netscape Navigator 7.0 でのみ発生しません。</p>
4910309	<p>「NULL」が警告メッセージで正しく表示されない。</p> <p>この語は、Virtual Server Manager の「Virtual Server」ページの Pick Directory でディレクトリサービスを編集しているときに表示されます。</p>
4905808	<p>スーパーユーザーが、分散管理を有効にしたあと、管理インタフェースにアクセスできない。</p> <p>回避方法: 分散管理を有効にしたあと、「スーパーユーザー」と同じ管理ユーザー名とパスワードを持つ LDAP のユーザーを作成します。</p>

表 16 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
4908694	ログ設定用のデフォルトのリンクが動作しない。 「Virtual Server」 ページ用の「Logging Settings」でデフォルトリンクがデフォルトのパスを設定せず、リセットボタンとして動作します。
4910197	JDBC リソースを編集するとき、プロパティページの値が、削除後も保持される。
4911552	.shtml ファイルが、構文解析されるべきでないときに構文解析される。
ID なし	Web Server に付属の sun-web.xml ファイルで間違った DTD の場所が示されている。 修正:正しい場所は http://www.sun.com/software/dtd/appserver/sun-web-app_2_3-1.dtd です。
6284698	root ユーザーでないユーザーとしてインストールすると、Web Server が動作しない。 回避方法: Web 管理コンソールを使用せずに、コマンド行から Web Server インスタンスを起動します。
6078104	passthrough プラグインが設定されている場合に、WS6.1 から JSP アプリケーションにアクセスできない。 回避方法: passthrough の service 指令から、次のように行を変更します。 <pre>Service type="magnus-internal/passthrough" fn="service-passthrough" servers="http://server:port"</pre> 上記の行を次のように変更します。 <pre>Service fn="service-passthrough" servers="http://server:port"</pre>
4991278	JSP ClassCache ファイルを削除するための管理 GUI 機能がない。
6316265	管理 GUI では、変更を有効にするために「Click Apply」と指示されているが、管理サーバーに「Apply」ボタンはない。

コア

次の表に、コアにおける既知の問題を示します。

表17 コアにおける既知の問題

バグID	説明
6363944	<p>Web Server 6.1SP5 (64 ビット) で Solaris 暗号化ソフトトークン (libpkcs11.so) を使用すると、webserverd 子プロセスが孤立する。</p> <p>回避方法: この問題は、Solaris ソフトトークンを使用するようにサーバーが明示的に設定されているときに限り発生します。fork()、Runtime.exec()、または <!--#exec cmd="..."--> を使用する必要がある場合は、Solaris ソフトトークンを使用するようにサーバーを設定しないでください。</p>
6313832	<p>既存の 32 ビットプラグインを 64 ビットリリースで使用できない。64 ビット Sun Java System Web Server リリースを使用して 32 ビットプラグインを読み込もうとすると、以下のようなエラーメッセージが生成される。</p> <pre>Sun ONE Web Server 6.1SP5 (64-Bit) B10/28/2005 09:00 failure:CORE3170:Configuration initialization failed:Error running init function load-modules:dlopen of plugin.so failed (ld.so.1:webserverd: fatal:plugin.so:wrong ELF class:ELFCLASS32)</pre> <p>回避方法: 32 ビットリリースの Sun Java System Web Server を使用するか、またはプラグインベンダーに連絡してプラグインの 64 ビットリリースを入手してください。</p>
4939491	<p>HP-UX: ./stop スクリプトを実行するとエラーメッセージが表示されてプロセスグループが終了する。</p>

マニュアルとオンラインヘルプ

次の表は、マニュアルとオンラインヘルプにおける既知の問題を一覧したものです。

注 - 各国語版の6.1のマニュアルにおける既知の問題の一覧については、[58 ページ](#)の「[6.1 マニュアルにおいて解決済みの問題](#)」を参照してください。

表18 マニュアルにおける既知の問題

バグID	説明
6506960	<p>オンラインヘルプで認証パスワードの最大文字数が8文字と記載されている。</p> <p>追加情報: 認証パスワードの認証文字は8文字より長くできます。</p>
4964908	<p>機能のアップグレードに関するマニュアルがない。</p> <p>追加情報: 24 ページの「インストール、アップグレード、移行に関する注意事項」を参照して下さい。</p>

表 18 マニュアルにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
5016571	Generic Thread Pools の下の「オンラインヘルプ」ページの情報が誤っています。
5053339	「オンラインヘルプ」 — 『管理者ガイド』およびオンラインヘルプに、ディレクトリの索引化に関する情報が無い。
4928287	すべてのドキュメントで、 <i>instance/lib</i> ディレクトリが存在しないことを通知していない。 追加情報:このディレクトリはインストーラによって作成されません。ディレクトリが存在しない場合、ユーザーが作成する必要があります。
6237303	『SUN ONE Web Server 6.1 リリースノート』には、Solaris SPARCプラットフォームに必要なパッチで記載されていないものがある。 追加情報:Solaris release 8 上の Web Server 6.1 には、109326-09 パッチが必要です。

インストール

次の表は、インストールにおける既知の問題を一覧したものです。

表 19 インストールにおける既知の問題

バグ ID	説明
6590899	AIX Web Server が起動時に JDK 1.5 の実行に失敗する。 回避策 起動スクリプトに次のように設定します。 <code>LDR_CNTRL=MAXDATA=0xB0000000@DSA; export LDR_CNTRL</code>
5020317	JDK だけをアップグレードすると、検索が使用できなくなる。ユーザーは例外を受け取り、検索ページは GUI からアクセスできない。 回避方法: この例外は、Web Server 6.1 SP2 コアと一緒にインストールされているか、JDK を単独でインストールする前にインストールされている場合は発生しません。また、JDK をアップグレードした Web Server 6.1 SP1 の上に Web Server 6.1 SP2 コアをインストールしている場合も、例外は起きません。
4855263	Sun Java System Web Server は、たとえば Program Files のようにディレクトリ名の中に空白が含まれているディレクトリにインストールされている場合には起動しない。これについてのエラーメッセージは、インストール中には表示されませんが、インストール後にサーバーは起動しません。 回避方法: Web Server を、ディレクトリ名に空白が含まれているディレクトリにインストールしないでください。

表 19 インストールにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
4869238	<p>Microsoft Windows プラットフォームにおいて、Sun Java System Web Server インストーラが、<code>server-root</code> などのロングネームを受け付けない。</p> <p>回避方法: Sun Java System Web Server インストールディレクトリのパス名は、フィールドでは 256 文字まで入力できますが、128 文字以内で指定してください。</p>
4901205	<p>Solaris プラットフォームで、インストーラの「完全修飾ドメイン名」画面に続く画面(「ユーザーおよびグループ名」画面から始まる)で、Ctrl+B キーが機能しない。</p> <p>回避方法: インストール中、前の画面に戻る必要がある場合は、インストーラを終了して再起動してください。</p>
4937915	<p>AIX プラットフォームでインストール中に Ctrl+C キーを押すと端末画面がハングする。</p> <p>この問題は、Web Server のインストールされるコンピュータ名を指定するために使用する画面で発生します。</p>
4960048	<p>Sun Java System Web Server 6.1 SP1 にアップグレードするときに、SNMP 関連ファイルがいくつか上書きされる。</p> <p>回避方法: アップグレードの前に次のファイルをバックアップしてください。</p> <p><code>server-root/plugins/snmp/magt/CONFIG</code></p> <p><code>server-root/plugins/snmp/sagt/CONFIG</code></p>

移行

次の表は、移行における既知の問題を一覧したものです。

表 20 移行における既知の問題

バグ ID	説明
6514480	<p>移行時に JAVA を有効にすることを選択し、移行後 GUI から有効にしたあとでも、移行した 4.1 インスタンス上で JAVA を有効にできない。</p> <p>回避方法: 次のエントリを手動で obj.conf ファイルに入力してインスタンスを再起動します。</p> <pre data-bbox="459 407 906 989"> <Object name="default"> NameTrans fn="ntrans-j2ee" name="j2ee" NameTrans PathCheck ObjectType Service Error fn="error-j2ee" AddLog </Object> <Object </Object> <Object name="j2ee"> Service fn="service-j2ee" method="*" </Object> </pre>
4790457	<p>移行したサーバーのドキュメントルートを 4.1 から変更できない。</p> <p>回避方法: 移行したインスタンスの obj.conf および server.xml を手動で編集します。これらのファイルは、SERVER_ROOT/HTTPS-INSTANCE/config ディレクトリの下にあります。</p> <p>obj.conf で、次の行を変更します。</p> <pre data-bbox="459 1206 1035 1232"> NameTrans fn=document-root root="<existing_doc_root>" </pre> <p>上記の行を次のように変更します。</p> <pre data-bbox="459 1293 913 1319"> NameTrans fn=document-root root="\$docroot" </pre> <p>server.xml で関連する VSCCLASS 下の次の行を変更します。</p> <pre data-bbox="459 1380 963 1406"> <PROPERTY name="docroot" value="existing-doc-root"> </pre> <p>上記の行を次のように変更します。</p> <pre data-bbox="459 1466 935 1492"> <PROPERTY name="docroot" value="new-doc-root"> </pre>

表 20 移行における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6213097	<p>ktsearch.jar が Sun Java Enterprise System 3 (JES3) で正しく移行されない。</p> <p>回避方法: 正しいパスを指すように、移行されるインスタンスの server.xml ファイルを手動で編集します。</p> <p>Linux の場合: /opt/sun/private/share/lib/ktsearch.jar</p> <p>Solaris SPARC の場合: /usr/share/lib/ktsearch.jar</p>
5007081	<p>6.0 から 6.1 への移行時に、Web アプリケーションファイルのステータスが無視される</p> <p>server.xml 内で、ファイルレベルで定義された Web アプリケーションの状態は移行されません。ユーザーが Web アプリケーションファイルのステータスをオフに切り替えてこれらを抑制しても、移行後これらの Web アプリケーションは公開されます。</p> <p>回避方法: 移行されるインスタンスの server.xml ファイルを編集し、各 Web アプリケーションの状態をオフにします。</p>
4988156	<p>既存のインストールへの SP_2 パッチをインストール (更新)</p> <p>Sun Java Enterprise System (JES) の一部としてインストールした Sun Java System Web Server 6.1 を最新の Service Pack にアップグレードする必要がある場合は、関連するパッチをダウンロードし適用する必要があります。詳細については、『JES 3 の移行およびアップグレード』を参照してください。</p>

サンプル

次の表は、サンプルアプリケーションにおける既知の問題を一覧したものです。サンプルアプリケーションが正しく機能するのを妨げる問題はありません。

表 21 サンプルアプリケーションにおける既知の問題

バグ ID	説明
5014039	<p>web.xml で、simple の JSP ファイルが distributable タグのため例外をスローする。</p> <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. /simple/src ディレクトリ下の web.xml から、distributable タグを削除します。 2. Web アプリケーションを再配備します。

表21 サンプルアプリケーションにおける既知の問題 (続き)

バグID	説明
IDなし	<p>rmi-iiop サンプルで手順が1つ抜けている。</p> <p>「Deploying the Sample Application」セクションで、コマンド <code>ant deploy</code> (手順2) の実行後、Web Server インスタンスを再起動します。</p> <p>注- 「ant」はJavaのビルドツールで、Apacheからダウンロードする必要があります (http://ant.apache.org)。 <code>install-root/plugins/java/samples/docs/ant.html</code> の情報も参照してください。</p>
IDなし	<p>jdbcrealm サンプルの Oracle ドライバ名が誤っている。</p> <p>「Compiling and Assembling the Sample Application」の節、手順2bで、次の行をその下の記述に変更します。</p> <pre><PROPERTY name="dbdrivername" value="oracle.jdbc.pool.OracleDataSource"></pre> <p>上記の行を次のように変更します。</p> <pre><PROPERTY name="dbdrivername" value="oracle.jdbc.driver.OracleDriver"></pre>

検索

次の表は、検索における既知の問題を一覧したものです。

表22 検索における既知の問題

バグID	説明
4977315	6.1のAIX検索エンジンには、ソート順序を変更する機能がない。
5038203	<p>回避方法: デフォルトの順序を変更するには、ソート文字列の先頭に「+」を追加します。URL内の「+」はエスケープされるため、「%2B」を使用して順序を変更します。この場合、URLを次のように変更します。</p> <pre>http://host/search/index.jsp?si=1&ns=10&c=test&qt;=*%2Bwriter</pre>
4684124	<p>すでにインデックス作成済みのコレクションのドキュメントルートを変更した場合、検索で返されるドキュメントは「<i>Document Not Found</i>」エラーをスローする。</p> <p>回避方法: 次のいずれかの手順を実行して、コレクション全体を再構築します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ すべてのドキュメントを削除し、もう一度追加します。 ■ コレクションを削除し、もう一度追加します。
4911725	<p>大文字と小文字の異なるパターンを使用して、単語を検索した場合に、検索が機能しない。</p> <p>大文字と小文字の混在した単語を検索した場合、検索結果は検索ページに表示されません。たとえば、sampleやSAMPLEの代わりにsAmPlEと入力した場合などです。</p>

表 22 検索における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
4963236	<p>HP-UX: 検索コレクションに含めるための PDF ファイルから HTML への変換ができない。</p> <p>この問題は、HP-UX 11i システムに次のパッチがインストールされると発生します。</p> <p>PHSS_28871 - ld/linker 累積パッチ</p>

セキュリティ

次の表は、セキュリティにおける既知の問題を一覧したものです。

表 23 セキュリティにおける既知の問題

バグ ID	説明
4671445	<p>Sun Java System Web Server が、LDAP クライアント認証を要求される場合、SSL を介して LDAP サーバーに接続できない。</p> <p>Sun Java System Web Server がクライアント認証を必要とする LDAP サーバーに接続する (この場合、Web Server はクライアントになる) 場合、Web Server の証明書を送信できず、アクセスが失敗します。</p>
4863599	<p>異なる組織単位の下では同じグループ名を使用できない。</p> <p>同じグループ名が使用されていて、グループ名でアクセスを制限しようとした場合、Sun Java System Web Server は、クライアントがそのサイトにアクセスしようとしたときにエラーを返します。</p> <p>回避方法: 各組織単位では異なるグループ名を使用してください。</p>
4963468	<p>環境によっては、「リスト」権限がディレクトリのリスト表示に効力を発揮しない。</p> <p>『Sun Java System Web Server 6.1 管理者ガイド』の第 9 章によると、インデックスファイルを格納していないディレクトリからディレクトリリストを取得するには「リスト」権限が必要です。しかし、特定の環境においては、適切な ACL によってリスト権限が拒否された場合でも、ディレクトリのリストを取得できます。</p> <p>ディレクトリの索引化を制限する必要がある場合は、リスト権限を拒否する代わりにまたはこれに追加して、『Sun Java System Web Server 6.1 管理者ガイド』の第 16 章に説明されているように、索引化を無効にします。</p>

表 23 セキュリティーにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6310956 6298215	LDAP が時間切れ (LDAP にタイムアウトが設定されているなど) のため接続をドロップすると、Web Server は LDAP への接続を再初期化できない。この問題は、Web Server が JES3/JES4 インストールの一部としてインストールされている場合にのみ発生する。スタンドアロン(ファイルベース)インストールでは発生しない。 回避方法: 1. Web Server のファイルベースのインストールからライブラリ libldap50.so をコピーし、現在のセットアップの次の場所に貼り付けます。 /opt/SUNWwbsvr/bin/https/lib 2. Web Server を再起動します。

ツール

次の表は、ツールにおける既知の問題を一覧したものです。

表 24 ツールにおける既知の問題

バグ ID	説明
4905696	Microsoft Windows では、ファイル名を含めたクラスファイルの深さが 255 文字を越えた場合、配備は失敗する。
4912181	Linux では、wdeploy コマンド行ユーティリティーを使用してアプリケーションを配備したとき、NULL ポインタ例外がスローされる。この問題は、配備の終了時に、配備が成功した場合のみ発生する。 回避方法: エラーは、配備に続いて reconfigure スクリプトの実行後、wdeploy が stdout/stderr を読み込むときに発生します。再設定メッセージのエラーログを調べて、サーバーが実際に再設定を行なったかどうか確認する必要があります。メッセージがそこになかった場合、手動で reconfigure スクリプトを実行してください。

Web コンテナ

次の表に、Web コンテナにおける既知の問題を示します。

表 25 Web コンテナにおける既知の問題

バグ ID	説明
6387189	配備されたモジュールでの Java のロギングの問題。

表 25 Web コンテナにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
4903162	url-patterns での大文字と小文字の使用に関連した Microsoft Windows の問題。 サーブレットの仕様により、web.xml の url-pattern 要素は大文字と小文字が区別されて扱われます。これによって Microsoft Windows ではユーザーの予期しない動作が発生する場合があります。たとえば、クライアントが index.html と一致するものと考えて index.HTML を要求した場合など。

WebDAV

次の表は、WebDAV における既知の問題を一覧したものです。

表 26 WebDAV における既知の問題

バグ ID	説明
4892017	親ディレクトリが排他的にロックされた場合、リソースの名前を変更、またはリソースの移動ができない。 この問題は、DAV クライアントが誤った If: ヘッダーを送信するとき発生します。たとえば、Macromedia Dreamweaver または DAV Explorer を使用して Web Server に接続し、コレクションを作成して、コレクションを無限の深さでロックする (すべてのリソースもロックする) 場合、リソースの名前を変更、またはリソースを削除できません。Adobe GoLive は、ロックの owner href が auth_user と一致する場合に、正しい If: ヘッダーを送信します。それ以外の場合には、GoLive でも、誤ったヘッダーも送信されます。
4902651	Virtual Server Manager の「Lock Management」画面が、ハードリンク用のロック情報を適切に表示しない。 ハードリンクおよびシンボリックリンクは、Sun Java System Web Server の WebDAV 実装ではサポートされません。

ローカリゼーション

次の表は、ローカリゼーションにおける既知の問題を一覧したものです。

表 27 ローカリゼーションにおける既知の問題

バグ ID	説明
4937055	Web Server の管理オンラインヘルプは一部しかローカライズされていない。 管理オンラインヘルプは、初期段階までしかローカライズされていません。初期ヘルプページはローカライズされていますが、ページのリンク、たとえば「サーバーの削除」をクリックしても、英語版のヘルプ内容が表示されます。

表 27 ローカリゼーションにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6441984	ロケールを zh-cn に設定しても、管理オンラインヘルプが英語で表示される。 zh-cn ロケール用の管理オンラインヘルプは英語で記述されています。ブラウザのロケールが zh-cn の場合、管理 GUI オンラインヘルプは英語で表示されます。 回避方法: 中国語でオンラインヘルプを表示するには、ブラウザのロケールを zh に設定します。
6583870	Web server 6.1 SP8: Internet Explorer 7 では、ロケールを ja か ja-JP に選択できます。ロケールを ja に選択した場合、オンラインヘルプは日本語で表示されます。ただし、ロケールを ja-JP に選択した場合は、オンラインヘルプは英語で表示されます。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Web Server 6.1 SP9 の使用にあたって問題が発生した場合は、以下のいずれかの方法で Sun のカスタマサポートにお問い合わせください。

- Sun ソフトウェアサポートサービス <http://www.sun.com/service/sunone/software>
- 保守契約を結んでいるお客様は、専用ダイヤルをご利用ください。

できるだけ適切に問題に対処するために、お問い合わせの際には次の情報をお知らせください。

- 問題が発生した状況および操作への影響などの、問題の具体的説明
- マシン機種、OS バージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

このマニュアルに関するコメント

弊社では、マニュアルの改善に努めており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。Sun へのご意見は、<http://docs.sun.com/> にある「コメントの送信」リンクを使用してお送りください。

ご意見をお送りいただく場合は、マニュアルの Part No. やタイトル名などの識別情報もあわせてご記入ください。

その他の情報

Sun Java Systems の有用な情報は、次の場所から入手できます。

- Sun Java System Web Server 6.1 および Service Pack のマニュアル
- Sun ソフトウェア製品およびサービス <http://www.sun.com/software>
- Sun 開発者向け情報 <http://developers.sun.com/>
- Sun 開発者サポートサービス <http://developers.sun.com/services/index.jsp>
- ソフトウェアサポートサービス <http://www.sun.com/service/support/software/>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス <http://www.sun.com/training>
- Sun コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunjavasystem/sjsservicessuite.html>

